

学校安全総合支援事業（文部科学省委託事業）

# 令和2年度学校防災アドバイザー派遣事業 報告書



【隣接する幼稚園と幼・小合同訓練】



【異学年の授業で助言を受ける様子】



【避難訓練で防火扉をくぐりぬける様子】



【子どもが改善した障害物のある避難訓練】



【オンラインでの講評・講話】



【高校生が避難所運営を体験】

令和3年2月 香川県教育委員会



# はじめに

文科省から送付された大川小学校事故及び訴訟判決に関する資料（次頁参照）に、目が留まりました。学校教育に携わる者として皆さんは、この事故及び訴訟判決をどのように感じられていますか。文部科学省は、各学校において学校保健安全法に基づく取組みとして、次の4つを主なポイントとしています。

- 「①学校安全計画の策定・見直し」                      「②実践的な防災教育の実施」  
「③危機管理マニュアルの作成・見直し」              「④学校環境の安全の確保」

2021年3月11日には東日本大震災から10年目を迎えます。これを契機に、各学校でもこれまでの10年間の防災教育の歩みを振り返り、この事故の教訓等を生かした防災教育の未来へとつなげる際の参考にしていただければ幸いです。例えば、「各学校の計画やマニュアルは、最新の状況に応じて見直しされているか。また、全教職員で共通理解が図られているか」、「避難訓練を休み時間に実施したり、地域・関係機関と連携して行ったりするなど、毎年、実践的な訓練が行われているか」など、各学校の取組みを改めて確認するとともに、災害への備えをお願いいたします。

このような状況を踏まえ、県教育委員会では平成24年度から、防災に関する有識者、各学校（園）種別代表者、保護者代表者等で構成する本事業の推進委員会を設置し、各学校（園）等の防災体制整備や防災教育のさらなる充実に向けた取組みについて検討してきました。また、希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、要望に応じて危機管理マニュアルや防災教育、より実効性のある避難訓練に対する助言等を実施してきました。このアドバイザーとして、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、香川県防災士会、日本技術士会四国本部、高松地方気象台の皆様方に御協力をいただいております。

また、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により中止となりましたが、県内公立高校生を対象に、「高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成講習会」を開催しています。この研修会は、夏休み期間中に香川大学と連携して、災害時のボランティア活動に関する基本的な理解を深めるとともに、防災体験や救護体験等を通して、災害時ボランティアリーダーの養成や支援者としての視点を身に付けることを目的に実施しています。

本報告書は、今年度に本事業を活用した17校（園）の取組みや、災害時の支援活動に貢献できる力を身に付けるための防災教育の取組みをまとめたもので、ここには、学校（園）における防災体制整備や防災教育の充実に向けた貴重な情報が盛り込まれています。各学校（園）におかれましては、それぞれの実態に応じて本書を御活用いただき、各学校（園）の取組みの一助としていただきますようお願いいたします。

結びに、本報告書の作成にあたり貴重な実践資料を御提供いただきました学校（園）、本事業の推進に御尽力いただきました推進委員会、学校防災アドバイザー、関係機関、関係団体、教育委員会の皆様方に心から御礼を申し上げます。

令和3年2月

香川県教育委員会事務局  
保健体育課長 宮滝 寛己

## 大川小学校事故及び訴訟判決について

### 事故の概要

平成23年3月11日(金)14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。石巻市立大川小学校では、地震当時在校していた児童・教職員が校庭への二次避難を行ったが、その後、保護者等への引渡しにより下校した児童27名を除く児童76名、教職員11名が津波に遭遇し、うち5名(児童4名、教職員1名)を除く児童・教職員が被災した。



〔大川小学校事故検証報告書〕(平成26年2月)一部加筆

### 控訴審判決(令和元年10月上告棄却により確定)の概要

- ①校長等・石巻市教委は、地震発生前に津波を想定した避難場所を設定し、避難経路・避難方法を「危機管理マニュアル」に記載する義務があったがこれを怠った。
- ②石巻市が大川小学校を避難所として指定したのは誤りであった。校長等は、独自の立場からハザードマップを批判的に検討すべきであり、地震・津波による堤防損壊の知見を活用すれば、大川小への津波到来を予見できた。
- ③津波が来ないという地域住民の認識は合理的根拠を欠くものであり、校長等は、住民を説得し、その認識を改めさせるべきであった。
- ④他に適当な避難場所がないことから、「バットの森」(大川小正門から約850m)を避難場所と定めておくべきであり、校長等は、プレハブ小屋や夜間照明等を設置するよう市教委に申し出る義務があった。

文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課

3

## 大川小学校事故及び訴訟判決について(つづき)

### 文部科学省の対応

- 震災後、大川小学校事故を含む東日本大震災の教訓を踏まえた、危機管理マニュアル作成の指針を示しており、これを参考に各学校で不断にマニュアルを見直ししていくことが必要。
- 学校だけに任せるのではなく、教育委員会が学校を適宜支援していくことが必要。また、地域の関係機関や住民と連携した防災体制の構築も重要。
- また、地域による取組の差や公立・私立の間の取組の差を解消していくことも課題。

### 学校防災マニュアル(地震・津波災害)作成の手引き (24.3)

- 東日本大震災を受けて、地震・津波を想定した事前、発生時、事後の危機管理について、学校防災マニュアル(危機管理マニュアルと同義)の作成、見直し、改善の行う際の留意点や手順、各種資料等を示したもの。



### 学校の危機管理マニュアル作成の手引 (30.2)

- 近年の様々な安全上の課題を踏まえて、不審者侵入、交通事故、気象災害、地震・津波、弾道ミサイル発射、学校への犯罪予告などを想定した危機管理マニュアル作成の手引。特別支援学校・幼稚園における留意点も記載。



文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課

4

## 学校防災体制の強化及び実践的な防災教育の推進について【令和元年12月5日付け依頼文】

- 気象災害、地震災害、火山災害など様々な自然災害の発生、気象災害の激甚化や南海トラフ巨大地震、首都直下大地震等の大規模な災害が懸念。
- 東日本大震災の津波災害に係る大川小学校事故訴訟に関して、最高裁における上告棄却(R2.10.10)。
- ➔学校安全計画、危機管理マニュアル、学校、家庭、地域、関係機関等の連携・協働の体制の見直しが必要

### 主なポイント

#### 1 学校保健安全法に基づく取組について

##### (1) 学校における取組

- ① 学校安全計画の策定・見直し
- ② 実践的な防災教育の実施
- ③ 危機管理マニュアルの作成・見直し
- ④ 学校環境の安全の確保

##### (2) 学校設置者における取組

- 学校安全計画、危機管理マニュアルの内容の定期的な点検、指導・助言
- 校長からの申し出に対する必要な措置
- 教職員の研修の実施、管理職の資質・能力の向上

#### 3 家庭、地域、関係機関との連携・協働について

- 連携・協働できる体制の構築
- コミュニティ・スクールでの取組

- ・系統的・体系的な安全教育の推進
- ・「自助」「共助」「公助」の視点
- ・効果的な様々な教育手法 等

- ・危機発生時の役割分担の明確化
- ・学校の立地⇒危険発生時の対応
- ・想定を超える自然災害への備え
- ・教職員の迅速かつ適切な対応 等



#### 2 水防法、津波防災地域づくりに関する法律等に基づく取組について

##### (1) 学校における取組

- 要配慮者利用施設又は避難促進施設に該当する学校は、避難確保計画の作成及び避難訓練の実施

##### (2) 学校設置者における取組

- 設置する学校が所在する地域のハザードマップ等の確認及び当該学校への指導・助言

文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課

5

# 目 次

## I 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業

○ 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領	1
・ 学校防災アドバイザー活用希望調査	3
・ 学校防災アドバイザー派遣申請書	4
・ 危機管理マニュアル作成 チェック表	5
・ 学校防災アドバイザー派遣事業報告書	6
・ 学校防災アドバイザー派遣事業アンケート	7
○ 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会設置要綱	8
○ 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会名簿	9
○ 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣計画表	10
○ 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業の経緯	11
○ 本事業のまとめ（令和2年度）	12
○ 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会の主な意見	19

## II 各学校（園）の取組み

1 防災計画や危機管理マニュアル等への助言	
・ 宇多津町立宇多津幼稚園	21
・ 三豊市立山本幼稚園	23
・ 三豊市立仁尾中学校	24
2 学校と保護者、地域、関係機関等と連携した避難訓練や防災教育等への助言	
・ 宇多津町立宇多津幼稚園	27
・ 三豊市立山本幼稚園	30
・ さぬき市立さぬき南小学校	32
・ 丸亀市立城西小学校	39
・ 観音寺市立豊田小学校	42
・ 三豊市立下高瀬小学校	44
・ 高松市立大野小学校	49
・ 坂出市立東部小学校	51
・ 香川大学教育学部附属高松小学校	55
・ 大手前高松中・高等学校	63
・ 三豊市立仁尾中学校	66

- ・香川県立高瀬高等学校 6 8
- ・香川県立高松養護学校 6 9

3 教職員の研修会等への助言

- ・東かがわ市丹生こども園 7 1
- ・高松市立古高松南小学校 7 2
- ・三豊市立詫間中学校 7 4

## I 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業





# 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領

## 1 趣旨

南海トラフ地震が今後30年以内に70～80%の確率で発生するとされている中、各学校（園）においては、危機管理マニュアル等の継続的な検証・見直しによる防災体制の整備、実効性のある避難訓練の実施による地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築・整備が求められている。また、災害発生時において、発達段階に応じて児童生徒等一人ひとりが状況を的確に判断し、学校（園）や社会の一員として適切に行動することができる能力や態度を育成する、防災教育の充実がますます重要となってきた。

そこで、本事業は、所在地が津波浸水予想区域や土砂災害警戒区域に含まれる学校（園）、災害環境や課題が共通する学校（園）、防災をテーマとした研修会、研究団体等に本事業の活用を希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、危機管理マニュアルや防災教育、より実効性のある避難訓練に対する助言等を行うことによって、各学校（園）等の防災体制の整備や防災教育の一層の充実を図ることをねらいとして実施するものである。

## 2 事業内容

香川県教育委員会が、防災に関する有識者、各学校（園）種別代表者、保護者代表者等で構成する推進委員会の助言のもとに講師を派遣する。

- (1) 派遣期間 令和2年6月22日～令和2年12月28日
- (2) 派遣校（園）等数 公立学校（園）、国立・私立学校（園） 40校（園）程度
- (3) 派遣回数及び時間 各学校（園）等に2回まで派遣、1回につき2時間程度

※ 各学校（園）等からの事前連絡と「学校防災アドバイザー派遣申請書（別紙様式2）」の再提出により、最大1回まで追加可能（最大3回まで派遣可能）

- (4) 主な派遣講師 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構職員、香川県防災士会所属防災士、日本技術士会四国本部所属技術士、高松地方気象台職員

※ 講師の旅費等はすべて県教育委員会で負担する。

### (5) 主な助言内容

- ① 学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
- ② 様々な想定や緊急地震速報受信システムの活用、地域の防災関係機関（保護者、地元消防署、危機管理部局、自主防災組織等）と連携した実効性のある避難訓練等への助言
- ③ 小学生向け防災副読本の活用、防災マップ作り、災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言
- ④ その他、本事業の趣旨に沿って学校（園）等と相談

### (6) 主な留意事項

地域間や学校間における取組みを共有したり、各学校（園）等の防災体制や防災教育の充実を図ったりする本事業の目的から、以下の3点を留意する。

- ① 事前に隣接する学校（園）や地域の防災関係機関等（保護者、地元消防署、危機管理部局、自主防災組織、教育委員会等）に周知・連絡を行い、事業当日に可能な範囲でオブザーバーとして参加をしていただくこと。
- ② 事業当日、参加している関係者との情報共有を図ること。
- ③ アドバイザー派遣を希望する活動の事前と事後の取組みの充実を図ること。

### 3 事業活用の申請・決定等

#### (1) 申請手続き

本事業の活用を希望する学校（園）等は、「学校防災アドバイザー活用希望調査（別紙様式1）」を作成し、令和2年5月13日（水）までに、各公立幼・小・中・高等学校（園）等は所管の市町（学校組合）教育委員会教育長あて、県立学校及び国立学校（園）は県教育委員会保健体育課長あて、私立学校（園）は総務学事課長あてに、**電子メール**で提出する。

#### (2) 派遣校（園）等の決定

本事業第1回推進委員会（6月上旬に開催予定）において、下記の条件等をもとに派遣校（園）を決定し、各公立幼・小・中・高等学校（園）等は所管の教育委員会を、私立学校（園）は総務学事課を通じて、県立学校及び国立学校（園）は各学校長あてに、文書で通知する。

- ① 域内で防災関係機関等及び災害環境がよく似た隣接する複数の学校（園）等と連携した取組みを実施しようとする学校（園）
- ② 所在地が津波浸水予想区域や土砂災害警戒区域に含まれる学校（園）
- ③ 防災をテーマとした研修会、研究団体等
- ④ 所管の教育委員会からモデル的な学校として推薦された学校（園）

#### (3) 派遣決定後の手続き

派遣校（園）等は、派遣決定の文書が届いた後、事業実施3週間前までに、「学校防災アドバイザー派遣申請書」（別紙様式2）、危機管理マニュアル作成チェック表（別紙様式3）、危機管理マニュアル（各学校（園）作成のもの）**それぞれ3部**を、**直接県教育委員会保健体育課担当に紙媒体**で提出する。提出した紙媒体をもとに、本事業担当者から学校担当者へ電話にて打合せを行い、その情報をアドバイザー等に共有する。

### 4 事業終了後の提出物等

#### (1) 学校防災アドバイザー派遣事業報告書（別紙様式4）

事業がすべて終了後、2週間以内に「学校防災アドバイザー派遣事業報告書（別紙様式4）」1部、事業の様子がわかる写真2～3枚（事業報告書内への挿入可）及び、事業当日の参考資料A4版1枚程度を、**直接県教育委員会保健体育課担当に電子媒体**で提出する。

※ 報告書は、県教育委員会が作成する「ホームページ」及び「事業報告書冊子」等での公開を予定していますので、作成に当たり、個人情報保護や著作権（作品の掲載、引用等）に十分注意すること。

※ 報告書の作成に当たっては、学校（園）等の課題に対するアドバイザーの具体的な助言例や、それに対する改善例をできるだけ記載すること。

#### (2) 学校防災アドバイザー派遣事業アンケート（別紙様式5）

事業がすべて終了後、2週間以内に「学校防災アドバイザー派遣事業アンケート（別紙様式5）」1部を、**直接県教育委員会保健体育課担当に電子メール**で提出する。

### 5 その他

派遣決定後の手続き及び事業終了後の提出物等に係る様式（別紙様式2～5）については、派遣校（園）等の決定通知とともに送付する。

〈参考〉2019年度学校防災アドバイザー派遣事業報告書（県教委保健体育課HPで公開中）  
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/hotai/pdf/security/31schoolbousaiadviserreport.pdf>



香川県教育委員会事務局  
保 健 体 育 課 長 殿

学校(園)名  
学校(園)長名

公印  
省略

令和2年度 学校防災アドバイザー派遣申請書

次のとおり、学校防災アドバイザーの派遣を申請します。

学校(園)等の名称			
耐震化の有無			
派遣内容(1回目)			
日 時	年 月 日 ( ) : ~ :		
場 所			
対 象 者 参加予定人数	幼児児童生徒 約 クラス数	名 教 職 員 約 クラス (特別支援学級	名 クラス)
外部より当日参加 可能な防災関係者	参加予定合計 保護者 消防署	名 隣接する学校(園) 名 自主防災組織 名 その他 ( )	名 名 名
アドバイザーに助言してもらいたい内容とその時間配分をできるだけ具体的に			
派遣内容(2回目)			
日 時	年 月 日 ( ) : ~ :		
場 所			
対 象 者 参加予定人数	幼児児童生徒 約 クラス数	名 教 職 員 約 クラス (特別支援学級	名 クラス)
外部より当日参加 可能な防災関係者	参加予定合計 保護者 消防署	名 隣接する学校(園) 名 自主防災組織 名 その他 ( )	名 名 名
アドバイザーに助言してもらいたい内容とその時間配分をできるだけ具体的に			
連 絡 先	(学校所在地) 〒 (担当・氏名) (電話等) TEL ( ) -		

(別紙様式3)

危機管理マニュアル作成 チェック表

学校園名【 】

	点 検 項 目	該当する:1 該当しない:0
作成内容	<input type="checkbox"/> 学校の立地する地理的な条件に合っているか	
	<input type="checkbox"/> 自治体等が作成しているハザードマップや過去の災害に対応したものか	
	<input type="checkbox"/> ハザードマップの災害規模を超えることを想定したものになっているか	
	<input type="checkbox"/> 校舎等の耐震化に合ったものになっているか	
	<input type="checkbox"/> 教室等の危険箇所の把握に合ったものになっているか	
	<input type="checkbox"/> 園児児童生徒等数、教職員数、支援を必要とする児童生徒等に合っているか	
	<input type="checkbox"/> 園児児童生徒等の年齢や発達段階に合っているか	
	<input type="checkbox"/> 園児児童生徒等の通学方法に合っているか	
	<input type="checkbox"/> 想定される様々な時間帯(授業中、登下校等)での発生に対応したものであるか	
	<input type="checkbox"/> 想定される様々な場所(教室、体育館、運動場等)での発生に対応したものであるか	
	<input type="checkbox"/> 様々な場面(停電時、津波警報発令時)に対応したものであるか	
	<input type="checkbox"/> 校内・外の避難場所を複数確保してあるか	
	<input type="checkbox"/> 帰宅困難な園児児童生徒等に対応したものであるか	
	<input type="checkbox"/> 事前対応・発生時対応・事後対応のフローチャートで整理され、わかりやすいか	
	<input type="checkbox"/> 事前の対応として備え・点検・体制・指導の四つで構成されているか	
	<input type="checkbox"/> 二次災害を考慮したものになっているか	
	<input type="checkbox"/> 保護者への緊急連絡体制、引き渡し対応について示されているか	
	<input type="checkbox"/> 関係機関への緊急連絡体制について示されているか	
	<input type="checkbox"/> 園児児童生徒等の心のケアに関して示されているか	
	作成方法	<input type="checkbox"/> 全ての教職員が関わるよう分担して作成されているか
<input type="checkbox"/> 全ての教職員が危機管理意識の統一が図られているか		
<input type="checkbox"/> 保護者や地域、自治体と協議し共通理解や役割分担が図られているか		
<input type="checkbox"/> マニュアルを元に実際に避難訓練等を実施しているか		
<input type="checkbox"/> 避難訓練等を振り返り、成果や課題を明らかにした記録が保管されているか		
<input type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題を元に、防災マニュアルの見直しをしているか		
その他		

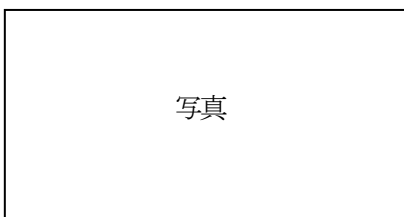
下記の確認事項についてチェックしてください。

確認事項	事前に隣接する学校(園)や地域の防災関係機関等(保護者、地元消防署、危機管理部署、自主防災組織、教育委員会等)にFAXやメール等で事前周知や連絡を行い、連携を図った。	
	事業当日、参加している関係者との情報共有を図る場(協議やアンケート等)を予定している。	

(別紙様式4)

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	
派遣内容	
日時	年 月 日（ ） : ~ :
場所	
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 名 教職員 約 名 クラス数 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 名 隣接する学校（園） 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（ ） 名
内容・日程等	
取組における成果	【事前活動】  【中心活動】  【事後活動】
今後の課題	



【タイトル】



【タイトル】

(別紙様式5)

令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業アンケート

問1 学校(園)名

問2 本事業の活用は今回が何回目となりますか。  回目  
注) 同一年度に2回以上活用した場合も、1回に数える

問3 防災アドバイザーの助言及び成果について、以下の項目を4段階で評価してください。  
**※ただし、貴校(園)の本事業活用の要望に該当する項目のみ回答をお願いします。(今回の助言内容に直接関係しない項目は空欄のまま提出してください。)**

(4:大いに当てはまる 3:当てはまる 2:当てはまらない 1:全く当てはまらない)

- |                               |                        |
|-------------------------------|------------------------|
| ① 助言内容はわかりやすかった。              | ① <input type="text"/> |
| ② 助言内容は学校(園)の要望に沿ったものであった。    | ② <input type="text"/> |
| ③ 学校(園)等の災害環境の把握につながった。       | ③ <input type="text"/> |
| ④ 危機管理マニュアル等の見直しにつながった。       | ④ <input type="text"/> |
| ⑤ 実効性のある避難訓練の見直しにつながった。       | ⑤ <input type="text"/> |
| ⑥ 地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築につながった。 | ⑥ <input type="text"/> |
| ⑦ 発達段階に応じた防災教育の充実につながった。      | ⑦ <input type="text"/> |
| ⑧ 教職員の防災意識の向上につながった。          | ⑧ <input type="text"/> |
| ⑨ 児童生徒等の防災意識の向上につながった。        | ⑨ <input type="text"/> |
| ⑩ 保護者等の防災意識の向上につながった。         | ⑩ <input type="text"/> |

問4 上記①～⑩以外の成果について具体的に書いてください。

問5 防災アドバイザーの助言等について、ご意見、ご要望、ご感想などがあればお書きください。

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会設置要綱

### (目的)

第1条 各学校(園)等の防災体制の整備や防災教育のさらなる充実を図るため、「学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会」(以下「委員会」という。)を設置し、各学校(園)等における防災体制の整備や防災教育の実施状況及び在り方等に助言するとともに、学校防災アドバイザーの派遣校(園)の決定及び派遣に係る検証等を行うものとする。

### (業務)

第2条 委員会は、次の業務を行う。

- (1) 学校防災アドバイザーの派遣校(園)の決定
- (2) 学校防災アドバイザー派遣に係る助言
- (3) 学校防災アドバイザー派遣事業による、学校(園)と地域の防災関係機関等との連絡・協力体制の構築に係る助言
- (4) 学校防災アドバイザー派遣事業報告による事業の検証

### (組織)

第3条 委員会の委員は、防災に関する有識者(香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、香川県防災士会、日本技術士会四国本部、危機管理課、消防局等代表)、幼・小・中・高・特別支援学校代表、保護者代表、関係行政機関の職員のうちから、香川県教育委員会教育長が委嘱または任命する。

### (任期)

第4条 委員の任期は、令和2年6月8日から令和3年2月28日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第5条 委員会に委員長1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。また、副委員長若干名を置き、委員長が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理する。
- 4 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

### (会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって決する。可否同数のときは議長の裁決するところによる。

### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、香川県教育委員会事務局保健体育課において処理する。

### (その他)

第8条 この要綱で定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

### 附則

- 1 この要綱は、令和2年6月8日から施行し、令和3年2月28日をもって廃止する。
- 2 第6条の規定にかかわらず、1回目の会議は教育長が招集する。



## 令和2年度学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会名簿

長谷川修一	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構	副機構長
白木 渡	香川県防災士会	会長
細谷 芳照	日本技術士会四国本部	副本部長
塩田 広宣	香川県危機管理総局危機管理課長	
長尾 剛司	高松市消防局予防課長	
田嶋 三枝	香川県国公立幼稚園・こども園長会	(善通寺市立竜川幼稚園長)
末澤 康彦	香川県小学校長会	(丸亀市立城西小学校長)
間嶋 浩	香川県中学校長会	(高松市立玉藻中学校長)
秋山 文孝	香川県高等学校長協会	(香川県立高松桜井高等学校長)
吉田 智	香川県特別支援学校長会	(香川県立聾学校長)
山田 士郎	香川県PTA連絡協議会	副会長
田中由賀里	香川県教育委員会事務局東部教育事務所主任指導主事	
高木 幸枝	香川県教育委員会事務局西部教育事務所主任指導主事	
宮滝 寛己	香川県教育委員会事務局保健体育課長	

(敬称略)

## 令和2年度学校防災アドバイザー

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構  
香川県防災士会  
日本技術士会四国本部  
高松地方气象台

# 令和2年度学校防災アドバイザー派遣計画表

番号	学校所在の市町名	学校(園)名	県(平成25年3月)以来、中部圏ハートマップ等による所在地の高度による浸水の有無	県や市町村ハートマップ等による所在地の土砂による災害の有無	本事業の活用の有無										実施要領2(5)の主な助言内容の中から希望する番号	本事業の活用希望理由(簡潔に)	今年度の活用希望回数	第1希望		地域の防災関係機関等の参加者数(見込含む)
					平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	実施予定日	実施予定時間						
1	さぬき市	さぬき南小学校	無	無	無	無	無	有	無	無	無	無	無	無	②	①既存の危機管理マニュアルが地域特性や災害の実態に応じたものになるよう整備・充実を図りたいため、2回引き直し訓練をより効果性のある訓練にしたいため。 ②1回目は危機管理マニュアル改訂に対する助言と実際に行う引き直し訓練に対する助言とをお願いしたい。 ③2回目は実際に消防署と連携した幼小合同の火災避難訓練に対する助言をお願いしたい。	2回	6月26日	14:00～16:30	見込合計175名 (内訳) 保護者170名 消防署5名
2	東かがわ市	丹生こども園	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	④	避難経路や避難場所の再確認を行いたいので、それに対する助言をお願いしたい。	1回	7月10日	9:30～11:30	
3	高松市	古高松南小学校	無	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	④	新川の沿いの低地にある本校は、大きな地震が発生した場合に津波だけでなく、液状化等の危険性も高い。2次避難場所をどこへすべきかわからない。本校周辺の地盤調査など科学的に分析していただき、最善の避難方法についてアドバイスいただきたい。昨年度、本校区長が主催する事業において科学的な見地から様々なアドバイスをいただいたと聞いた。教職員のみでの参加であるが可能な本校でもぜひご助言をいただきたい。	1回	8月4日	10:00～11:00	
4	三豊市	仁尾中学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	有	①	市作成の防災マップでは本校が避難場所に指定されているが、本校は埋め立て地に建築され、校舎も老朽化し、避難所としてふさわしいの疑問である。大規模に備えた実効性のある避難経路を明確にした上での防災・避難訓練を行うために希望した。昨年度も助言をいただいたが、今年度も具体的な避難経路設定に向けての管理職との相談をお願したい。	2回	8月5日	10:00～12:00	見込合計1名 (内訳) 危機管理事務局1名	
5	三豊市	詫間中学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	④	学校周辺の自然条件から考えて、高潮や津波が起こった際の避難について見直しが必要があります。 第1回目は、実際に学校周辺地域で避難ルートを検証し、助言をいただきたい。 第2回目は、1回目の助言を生かした避難計画についての助言をいただき、来年度の避難訓練へつなげたい。	2回	8月6日	9:30～11:30	見込合計6名 (内訳) 消防署1名 危機管理事務局1名 隣接の学校(園)2名 その他(管理職)3名
6	三豊市	詫間中学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	④	学校周辺の自然条件から考えて、高潮や津波が起こった際の避難について見直しが必要があります。 第1回目は、実際に学校周辺地域で避難ルートを検証し、助言をいただきたい。 第2回目は、1回目の助言を生かした避難計画についての助言をいただき、来年度の避難訓練へつなげたい。	2回	8月18日	9:30～11:30	見込合計6名 (内訳) 消防署1名 危機管理事務局1名 隣接の学校(園)2名 その他(管理職)3名
7	宇多津町	宇多津幼稚園	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	①	1回目は、職員を対象とした研修として、防災計画や危機管理マニュアルの見直しを図りたいので、ご助言をお願いしたいです。 2回目は、実際に消防署と連携した避難訓練に対する助言をお願いしたいと思います。	2回	8月24日	9:30～11:30	見込合計1名
8	三豊市	山本幼稚園	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	①	新設園のため、園の置かれている災害環境や避難経路について相談し、希望していました。 1回目は職員を対象とした研修、2回目は実際に消防署と連携した避難訓練に対する助言をお願いしたい。	2回	8月27日	13:00～14:00	
9	高松市	高松養護学校	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	④	本校は県下唯一の肢体不自由児学校で、児童生徒のほとんどが車いすを利用し、避難するためには教職員の介助が不可欠である。現行の避難方法や校内待機策、備前内容についてご助言をいただきたい。 1回目は教職員に対する研修会(講演会)、2回目は実際に消防署と連携した避難訓練に対するご助言をお願いしたい。	2回	8月26日	15:30～16:50	見込合計120～230名 (内訳) その他120～230名 (児童生徒110、教職員120)
10	丸亀市	城西小学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	毎年、避難訓練を実施しているが、より実効性のある訓練とするために、避難訓練や防災教育等へ専門家から助言をいただきたい。	1回	9月1日	9:30～10:15	
11	観音寺市	豊田小学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	前年度実施した消防訓練に対する助言、後年度は校内の安全点検ならびに職員を対象とした研修をお願いしたい。	1回	9月2日	14:00～16:00	見込合計2名
12	三豊市	下高瀬小学校	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	学校の置かれている災害環境や地域の自主防災組織等との連携の仕方が分からないので、第一歩を踏み出すために希望した。 子どもたちの避難訓練の様子を見て、危機管理や担当職員への助言(避難経路計画の作成の観点から)や避難時の対応(10月25日の消防フェスタに向けての助言をお願いしたい。)	1回	9月3日	9:30～11:00	地震・洪水時避難訓練等 児童194名 職員25名 場合によっては園児も ・学校が避難所になった場合のアドバイスなどいただける人 ・マニュアル等の作成について指導していただける人 ・地域の自主防災に詳しい人
13	高松市	大手前高松中学・高等学校	無	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	昨年度まで高松消防から職員を派遣していただき、実施していただくことで、今年度は消防員となり、今後実施していくうえで、第三者の目で助言をいただきたい。	1回	9月16日	14:20～15:10	見込合計770名 (内訳) その他770名 (生徒 教職員)
14	坂出市	東部小学校	有	有	無	無	無	無	無	無	無	無	有	③	4年生の総合的な学習の時間に防災教育を実施しており、昨年度地域の自主防災組織の方々と一緒に地盤を歩き、これまで作成した防災マップを見直し、その防災マップを活用した防災活動や市の防災マップとの比較や自主防災組織や危機管理課との連携についてご助言をいただきたい。	1回	9月29日	13:40～14:25	見込合計32名 (内訳) 保護者20名 保護者5名 危機管理事務局3名 消防署4名 隣接の学校(園)2名 その他(大学教員)2名	
15	三豊市	山本幼稚園	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	新設園のため、園の置かれている災害環境や避難経路について相談し、希望していました。 1回目は職員を対象とした研修、2回目は実際に消防署と連携した避難訓練に対する助言をお願いしたい。	2回	9月30日	10:00～11:30	
16	高松市	香川大学教育学部附属高松小学校	無	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	③	疑似体験を通して、子どもの防災意識を高め、防災の考えや活動、グッズ案を動画やチラシ、商品にして、地域に発信するための 3回の活動を希望しています。	2回	10月13日	12:50～14:50	見込合計25名 (内訳) 保護者20名 消防署4名 危機管理事務局1名
17	高松市	大野小学校	無	無	無	無	有	有	有	有	有	有	有	有	②	避難訓練への防災を希望していたことで、発達段階に応じて児童生徒等一人ひとりが状況を的確に判断し、学校の一員として適切に行動することができる能力や態度の育成につながった。また、防災教育が充実した。	1回	10月18日	8:30～12:30	見込合計365名 (内訳) 保護者395名 消防署4名 危機管理事務局5名 自主防災組織20名
18	宇多津町	宇多津幼稚園	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	1回目は、職員を対象とした研修として、防災計画や危機管理マニュアルの見直しを図りたいので、ご助言をお願いしたいです。 2回目は、実際に消防署と連携した避難訓練に対する助言をお願いしたいと思います。	2回	10月27日	13:15～15:15	見込合計1名
19	三豊市	仁尾中学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	有	①	市作成の防災マップでは本校が避難場所に指定されているが、本校は埋め立て地に建築され、校舎も老朽化し、避難所としてふさわしいの疑問である。大規模に備えた実効性のある避難経路を明確にした上での防災・避難訓練を行うために希望した。昨年度も助言をいただいたが、今年度も具体的な避難経路設定に向けての管理職との相談をお願したい。	2回	11月4日	13:20～14:10	見込合計1名 (内訳) 危機管理事務局1名	
20	高松市	高松養護学校	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	本校は県下唯一の肢体不自由児学校で、児童生徒のほとんどが車いすを利用し、避難するためには教職員の介助が不可欠である。現行の避難方法や校内待機策、備前内容についてご助言をいただきたい。 1回目は教職員に対する研修会(講演会)、2回目は実際に消防署と連携した避難訓練に対するご助言をお願いしたい。	2回	11月11日	10:00～11:30	見込合計120～230名 (内訳) その他120～230名 (児童生徒110、教職員120)
21	高松市	香川大学教育学部附属高松小学校	無	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	③	疑似体験を通して、子どもの防災意識を高め、防災の考えや活動、グッズ案を動画やチラシ、商品にして、地域に発信するための 3回の活動を希望しています。	2回	11月13日	9:00～11:00	見込合計25名 (内訳) 保護者20名 消防署4名 危機管理事務局1名
22	高松市	香川大学教育学部附属高松小学校	無	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	③	疑似体験を通して、子どもの防災意識を高め、防災の考えや活動、グッズ案を動画やチラシ、商品にして、地域に発信するための 3回の活動を希望しています。	3回	11月24日	12:50～13:35	見込合計25名 (内訳) 保護者20名 消防署4名 危機管理事務局1名
23	坂出市	東部小学校	有	有	無	無	無	無	無	無	無	無	有	③	4年生の総合的な学習の時間に防災教育を実施しており、昨年度地域の自主防災組織の方々と一緒に地盤を歩き、これまで作成した防災マップを見直し、その防災マップを活用した防災活動や市の防災マップとの比較や自主防災組織や危機管理課との連携についてご助言をいただきたい。	2回	11月17日	13:40～15:20		
24	さぬき市	さぬき南小学校	無	無	無	無	有	無	無	無	無	無	無	無	②	①既存の危機管理マニュアルが地域特性や災害の実態に応じたものになるよう整備・充実を図りたいため、2回引き直し訓練をより効果性のある訓練にしたいため。 1回目は危機管理マニュアル改訂に対する助言と実際に行う引き直し訓練に対する助言とをお願いしたい。 2回目は実際に消防署と連携した幼小合同の火災避難訓練に対する助言をお願いしたい。	2回	12月17日	13:30～16:00	見込合計175名 (内訳) 保護者170名 消防署5名
25	三豊市	高瀬高等学校	無	無	無	無	有	有	有	有	有	有	有	有	②	避難所運営の避難訓練を見ていただき、改善点や感想などをいただきたい。	1回	12月22日	12:00～12:45	見込合計55名 (内訳) 危機管理事務局5名 自主防災組織50名
17校(園)			3	4	0	0	1	1	2	2	1	4	①…③、②…②、③…⑤、④…⑤		25回					

①学校防災計画や危機管理マニュアル等の助言  
②様々な想定や緊急地震速報受信システムの活用、地域の防災関係機関(保護者、地元消防署、危機管理事務局、自主防災組織等)と連携した実効性のある避難訓練等への助言  
③小学生向け防災訓練本の活用、防災マップ作り、災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言  
④その他、本事業の趣旨に沿って学校(園)等と相談

# 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業計画の経緯

## ○学校安全総合支援事業（文部科学省委託要項から抜粋）

学校種・地域の特性に応じた学校安全推進体制の構築を図るため、下記の事業を実施する。

- (1) モデル地域を設定し、学校安全の推進体制を県内に普及するための支援事業の実施
- (2) モデル地域の拠点校を中心に地域学校間で連携し、各校中核教員を通じて、各学校の取組み等を共有する事業の実施
- (3) 学校安全計画の改善、見直しなど、学校安全の取組みの推進・支援事業の実施

## ○学校防災アドバイザー派遣事業の趣旨（文部科学省委託事業を受け、平成24年度から実施）

外部の専門家を学校防災アドバイザーとして学校に派遣し、学校間・地域住民・保護者・関係機関との連携強化や危険等発生時対処要領等の作成・検証に関する指導・助言などを行い、組織的な学校の安全管理体制の構築・強化を行うことにより、学校を含めた地域全体としての安全水準の向上を図る。

### 1 推進委員会第1回会議

(1) 日 時 新型コロナウイルスの感染拡大のため、紙面開催（6月上旬）

(2) 内 容

① 委員紹介

② 事業説明

ア 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会設置要綱について

イ 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領について

③ 委員長、副委員長選出

④ 協議

ア 学校防災アドバイザー派遣事業の希望状況と派遣校（園）の決定について

イ 学校防災アドバイザー派遣に係る助言内容及び学校（園）と地域の防災関係機関等との連携構築について

ウ 避難所運営マニュアルについて

### 2 学校防災アドバイザー事前打合せ会

(1) 日 時 新型コロナウイルスの感染拡大のため、紙面開催（6月中旬）

(2) 主な内容

① 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領について

② 派遣計画等について

・原則的として、推進機構・技術士会のグループ、防災士会のグループ、気象台のグループから、それぞれ1名が可能な範囲でメインのアドバイザーを担当する。

・保健体育課からは可能な範囲で同行する。

③ 実施方針、助言内容について

④ アドバイザー研修について

ア アドバイザーの姿勢と留意点（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構）

イ アドバイザー実践報告事例について（日本技術士会四国本部）

ウ アドバイザー実践報告事例について（香川県防災士会）

### 3 学校防災アドバイザー派遣

令和2年6月26日（金）～令和2年12月22日（火）

### 4 推進委員会第2回会議

(1) 日 時 令和3年1月28日（木） 15:00～16:30

(2) 場 所 香川県社会福祉総合センター

(3) 内 容

① 本事業の成果と課題について

② 本事業の取組みの成果の普及について

③ 本事業の継続的な運用について

※「高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成講習会」

新型コロナウイルスの感染拡大のため、開催中止

# 本事業のまとめ(令和2年度)

## 1 活用状況

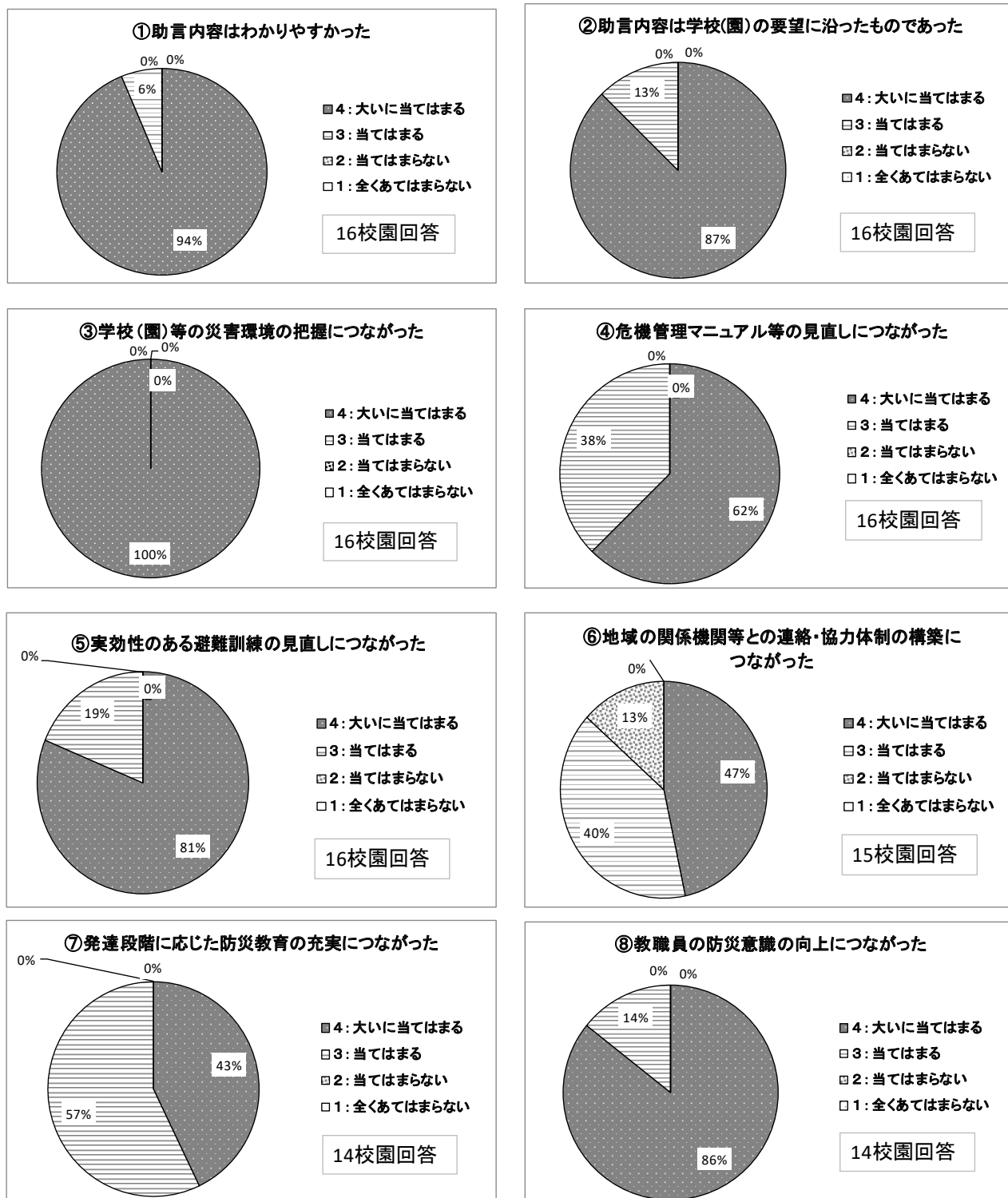
○派遣校(園)回数 17校(園) 25回

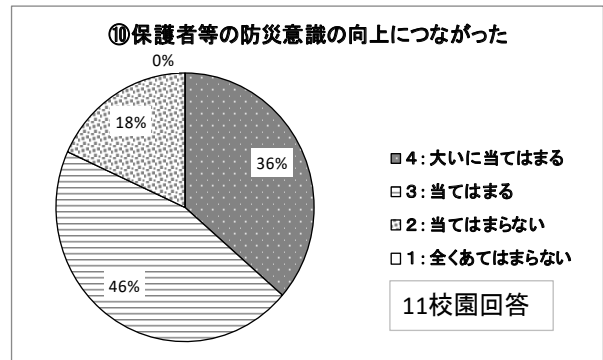
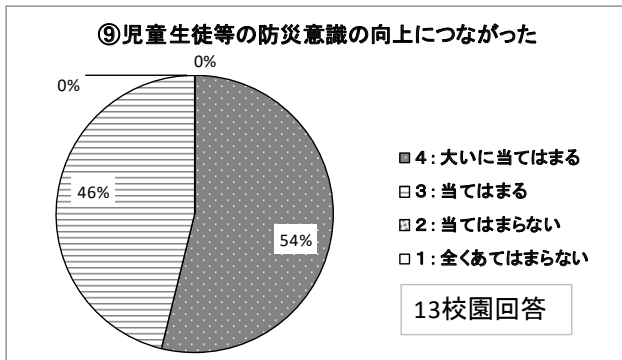
○17校(園)の内訳

5年目:2校、2年目:3校、1年目:12校(園)

幼稚園:3園、小学校:8校、中学校:3校、高等学校:2校、特別支援学校:1校

## 2 アンケート集計結果(学校(園)が該当する項目のみ回答)





### 3 各学校（園）の具体的な成果（学校（園）へのアンケートから一部抜粋）

#### 【学校（園）等の災害環境の把握につながった】

- ・ （新設の園であり）園内の窓ガラスの飛散防止や家具等の転倒防止などのアドバイスをいただき、安全の見直しにつながった。

#### 【危機管理マニュアル等の見直しにつながった】

- ・ 地域の地理的な状況が分かり、第2避難場所の見直しにつながった。

#### 【実効性のある避難訓練の見直しにつながった】

- ・ 外部からきていただくことによって、より緊張感をもって取り組むことができるし、訓練の客観的評価につながった。
- ・ 実際の災害を想定した具体的なアドバイスをいただいたので、これから取り組んでいくべきことが見えてきた。
- ・ 地域の防災士の方と連携を取りながらの訓練を行った上で、助言をいただいたので実情に沿った助言であった。

#### 【地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築につながった】

- ・ 市や地域の方のご厚意で、防災頭巾や防災ヘルメットなどの防災グッズを保管する棚、「児童受け取りカード」等の作成費用を補助していただき、防災環境がよくなってきた。「防災ノート」を優先的に活用することもできた。

#### 【発達段階に応じた防災教育の充実につながった】

- ・ 9月には、これまでの防災学習について発表し、その内容についてご指導いただき、学習の方向性が明確になった。11月の学習では、児童にとってより具体的な内容として実感することができるように、校区を実際に調査した。それらの調査内容から、本当に役立つ情報を選択し、伝える対象を決めて広報活動につなげていくことをご指導いただき、児童にも分かりやすくアドバイスをいただいた。

#### 【教職員の防災意識の向上につながった】

- ・ 避難経路や避難の仕方、救護場所の設置の仕方について適切なアドバイスをしていただいたことで、本校職員が防災や減災に対する具体的なイメージをもつことができました。
- ・ 避難訓練を見ていただき、私たちが気付かなかったことを具体的にたくさんご指導していただきました。「何より子どもを守るためには先生の命が一番！なのにその意識が薄いのではないか」というご指摘が私たちには気づけない大きなことでした。これか

らの避難訓練は様々なケースを想定して取り組みたいと思いました。

【児童生徒等の防災意識の向上につながった】

- 子どもが自ら防災への意識を向上させるために、子どもが考案した活動をアドバイザーの方も一緒に体験することが、危機意識の向上には大きなつながることが分かった。画一的な体験ではなく、創造的な体験こそ、子ども自身が自分の命を守れるようになり、周囲の人も助けようとする大人になると感じた。

4 本事業を初めて活用した学校（園）と継続して活用した学校（園）の成果の比較

No.	アンケート項目	初活用			継続活用		
		H30	R1	R2	H30	R1	R2
①	助言内容はわかりやすかった。	3.7	3.9	3.9	3.7	3.8	4.0
②	助言内容は学校（園）の要望に沿ったものであった。	3.8	3.7	3.8	3.6	3.9	4.0
③	学校（園）等の災害環境の把握につながった。	3.7	3.6	4.0	3.9	3.7	4.0
④	危機管理マニュアル等の見直しにつながった。	3.6	3.7	3.8	3.5	3.1	3.2
⑤	実効性のある避難訓練の見直しにつながった。	3.7	3.7	3.9	3.5	3.9	3.6
⑥	地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築につながった。	3.3	3.5	3.1	3.3	3.7	3.8
⑦	発達段階に応じた防災教育の充実につながった。	3.3	3.5	3.4	3.8	3.5	3.5
⑧	教職員の防災意識の向上につながった。	3.8	3.8	4.0	3.4	3.6	3.5
⑨	児童生徒等の防災意識の向上につながった。	3.4	3.5	3.6	3.2	3.4	3.5
⑩	保護者等の防災意識の向上につながった。	3.0	3.1	3.3	3.0	3.6	3.0

※4段階評価 前年度比向上

5 防災アドバイザーの助言等への意見、要望等（学校（園）へのアンケートから一部抜粋）

【初活用】

- 避難訓練の実施前に、事前にいろいろと相談に乗っていただき、ありがたかったです。それぞれの専門的な立場でお話をいただき、大変参考になりました。
- 専門的な分野で、様々な角度からアドバイスをいただき避難場所や安全確保等の見直しにつながった。また、市の危機管理課との連携を図れるきっかけとなった。
- 子どもの意見を最大限理解してくださり、子どものためになりました。貴重なご意見をたくさんありがとうございました。無理のない程度に、継続して関わる必要があります、その成果として他の地域に発信できる枠組みができるのではないかと感じました。
- 教職員では想定し得なかった視点を示してくださったため、今後の訓練の充実を図るとともに、より一層の危機意識をもって日々過ごしたいと感じた。
- 新設園であり、防災計画について専門的に指導していただきたいと思っていたのでとても勉強になりました。ハザードマップを見ながら危険場所、避難経路について地域連携の大切さを教えていただきとてもよくわかりました。防災計画の見直しに生かしたいと思います。また、防災グッズの正しい使い方を教えていただき、次回は園内巡回でもっと具体的に教えていただきたいと思いました。

- ・ 本校の地震発生におけるハザードとリスク対応に関して、分かりやすく教えていただき、的確なアドバイスをいただき、災害環境の把握ができました。ご指導いただいた内容をもとに実効性のあるマニュアルに向けての見直しや避難訓練の計画ができそうです。
- ・ 具体的なご指導ご助言をいただき、危機管理マニュアルの見直し、避難訓練などについてとても参考になり、今後の取組みや職員の意識向上に繋がりました。またぜひ、来年も来ていただきたいです。
- ・ わかりやすく講話していただき、大変ありがたかった。講話時間が少なく、申し訳なかったです。

### 【継続活用】

- ・ 児童と一緒に地域の安全点検や防災マップ作りにかかわっていただいたことで、児童が質問したことについて、即座にアドバイスを聞くことができた。大学教授や県の防災士だけでなく、市の関係機関、地域の自主防災組織の方も参加いただき、より多くの視点から防災について考えることができた。また、新型コロナウイルスの影響で、3密を避けた学習に留意したり、交通安全にも気を配ったりする必要があったことから、坂出警察署や市共働課の方の支援も大変ありがたかった。2回実施でアドバイザーが同じであることは大変ありがたく感じている。
- ・ 管理職自身の防災に対する意識が高まりました。実際に災害が起こったときのことを想定して、具体的に、また、様々なパターンで、対応マニュアルを考えておかななくてはいけないと感じました。まずは、全職員での共通理解を進めていきたいと思います。
- ・ 具体的にご指導頂き、危機管理マニュアルや実際の避難訓練の改善につながりました。継続的にご指導頂ければありがたいと思います。
- ・ (本校は校舎の建て替え時期があり、旧校舎、仮校舎、本校舎での訓練の実施、及び体育館や運動場等への避難場所の変更など、) 継続的に見ていただいているので、その年の本校の実態にあった助言をいただいている。

## 6 本事業の特色ある活用事例(学校(園)の報告書から一部抜粋)

### ○学校と保護者、地域、関係機関等と連携した実効性のある避難訓練・防災教育

【さぬき市立さぬき南小学校：1回目】(p 32～p 38)

- ・ 職員会議では、実施計画を基に、訓練の詳細について全教職員で共通理解を図った。地震後の火災想定であったため、避難時の留意点と避難経路について十分に検討した。新型コロナウイルス感染症対策のため、校舎内のドアや窓が開いていることから、地震の時は出入り口を確保し、火災の放送があった後、児童引率係以外の職員が窓・ドアを閉めることを確認した。実際に想定し、防火扉を閉めて訓練を行うようにした。
- ・ 防災意識を高めるため、避難訓練後、4年生は起震車体験、5年生は消火体験、6年生は救助袋使用体験を行うようにした。

- ・ 保護者の防災意識を調査するために、「シェイクアウトアンケート」を実施し、結果を公表した。

【三豊市立下高瀬小学校：1回目】（p 44～p 48）

- ・ 避難訓練の計画段階から学校担当者と事業担当者が相談し、より実践的な避難訓練をめざし、洪水時だけでなく地震と連動した避難訓練に変更した。ステップを踏んで、数ヶ月後には、抜き打ち避難訓練などを実施することにした。
- ・ 地域の防災フェスタに向けての助言をいただき、これまで不十分だった「児童引き渡し訓練」にも力を入れて取り組むことができた。事前事後の振り返りを行うことで、児童や保護者の防災に対する意識が一層高まった。

【高松市立大野小学校：5回目】（p 49～p 50）

- ・ 保護者もいっしょに体験や学習してもらうことで、防災意識を高めていくことができた。
- ・ 防災という観点だけでなく、発達段階に合わせて、交通や地域安全などについて、地域の方だけでなく、警察や消防にも協力してもらい、様々なことを学べたことがよかった。
- ・ 水害について、プールを活用して、洪水体験ができた。

【香川大学教育学部附属高松小学校：1回目】（p 55～p 62）

- ・ （学習後に）香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構が所有している災害地震訓練システムでの体験を行った。（保護者とともに）
- ・ （学習後に）学校で実施する避難訓練に合わせて、階段や廊下に障害物を置き、安全に避難する訓練をした。教師の言葉がけの在り方や児童が障害物へ意識を向けやすいことが分かり、教員間での訓練の必要性を見出せた。

【大手前高松中学・高等学校：1回目】（p 63～p 65）

- ・ （計画時に）コロナウイルスの影響で生徒を避難訓練させることで「密」が発生しないかなどを基準に計画を立てた。
- ・ 県教委保体課とも相談し、コロナ対策も踏まえて対人の講評講話ではなく、オンラインでのスタイルにできるように調整した。
- ・ （訓練時に）今年度新しく状況確認教員を配置したが、連携が取れず、機能しなかった。

## ○防災に関する教職員研修の開催

【東かがわ市立丹生こども園：1回目】（p 71）

- ・ 津波・ため池ハザードマップから、園周辺の立地から起こりうる災害を知ることができた。園は津波の心配は無いが、ため池の決壊や液状化現象が予想される。高台の第2避難場所（園外）よりも、本園で留まる方が安全なことが分かった。
- ・ 本園は、広域避難場所である。混乱を防ぐため、市や地域の方と話し合い園児が使用する場所、地域の方に提供する場所を明確にしておくことを教えたいただいた。



- ・ 市危機管理課の方も来園していただいた。園の現状を伝えたり今後もつながっていったりしていくためのきっかけ作りとなった。

## 7 次年度に向けて

### (1) 本事業の成果と課題について

#### 【成果】

- アンケート結果を昨年度と比較すると、10項目中7項目は向上傾向を示した。特に「③学校（園）と災害環境の把握につながった」は、過去3年間低下傾向を示していたが、今年度「4 大いに当てはまる」が100%を示した。この要因は、昨年度から継続実施しているヒアリングシート（次頁参照）による電話の聞き取りが、アドバイザーと学校（園）の「災害環境」という言葉のとらえの一致につながっていると考えており、次年度も継続していきたい。
- 昨年度推進委員会の意見をもとに、「本事業の成果の反映を促す表示」について、報告書記入例に「事後活動」を表記し、その手立てを行った。下表のような継続した取組みがみられ、保護者や地域の関係機関等と連携が図られた。

学校（園）名	取組み
宇多津幼稚園	引き渡しカードを新規作成し、2回目の訓練で活用した。 隣接する小学校と連携し、避難経路や避難行動を確認した。
仁尾中学校	避難行動フローチャートを新規作成し、教職員で共通理解を図った。
さぬき南小学校	全教職員で訓練の課題を共有し、解決を協議した。 保護者啓発（アンケートの実施、学校だよりでHPに掲載）
下高瀬小学校	継続した取組み(地域防災フェスタで保護者等と連携した訓練実施) (シェイクアウト訓練を児童に抜き打ちで実施)
附属高松小学校	防災をテーマに、異学年での授業を行った。 (授業参観時、保護者と一緒に水消火器体験を実施) (希望する親子が、休日に香川大学災害地震訓練システムを体験) (校内避難訓練では、子どもが考えた障害物のある訓練を実施)
高瀬高等学校	1年生が総合的な探求の時間に三豊市危機管理課と連携して学習した。また、その内容を発表して、1年生全員に共有を図った。

#### 【課題】

- 次表は、アンケート結果を昨年度と比較し、低下傾向を示した3項目である。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、三密を避けるため大勢が参加する訓練の実施は難しく、その代替案を模索しながら実施した。新型コロナウイルスというこれまでにない課題への対応も身につけていくとともに、次年度以降、安全・安心を最優先に、防災教育をどのように行うか、今後の課題とする。

アンケート項目	R1(%)	R2(%)	差(%)
⑥地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築につながった	63	47	-16
⑦発達段階に応じた防災教育の充実につながった	50	43	-7
⑩保護者等の防災意識の向上につながった	38	36	-2

(2) 本事業の取組み成果の普及について

昨年度から国立・私立学校（園）を本事業対象に含めており、本事業報告書を県内すべての学校（園）及び関係機関等へ配付するとともに、保健体育課ホームページへの掲載や研修会等における取組み紹介を通して、成果の普及に努めていきたい。また、防災教室講習会（8月）で表紙の取組みを中心に資料提供や発表などを検討する。

(3) 本事業の効果的な運用について

アドバイザーは、ヒアリングシートによる聞き取りのように、学校（園）の要望や取組みを理解した上で専門的な立場からの助言を行うこと、同じアドバイザーが複数年継続して同じ学校（園）を担当すること、事業後も継続して学校（園）の相談にのっている事例などがあげられる。

また、近年、学校（園）は、学校が避難所になった際の運営や決まり事、水防法や土砂災害防止法の改正により避難確保計画を学校防災計画への追記等、学校（園）によって様々な悩みや課題を抱えており、学校（園）によりそった支援や各市町の関係機関等との連携につながるような相談を実施するなど、本事業内容の運用を検討していきたい。

学校防災アドバイザー派遣にかかる事前ヒアリングシート

- 1 要請校・園の名称
- 2 実施日時
- 3 連絡窓口となる担当者名 連絡先
- 4 実施時間 活動時間とアドバイスする時間  
(アドバイスできる時間) ※「アドバイザーの人数と役割分担」
- 5 学校・園の参加者（役職名）と人数
- 6 助言内容の確認 【予想される内容】
  - (1) 防災訓練の実施へのアドバイス
  - (2) 学校施設の危険箇所の点検と指導
  - (3) 避難経路・避難場所についてのアドバイス
  - (4) 学校防災計画・危機管理マニュアルへのアドバイス
  - (5) 避難所運営マニュアル作成へのアドバイス
  - (6) 教職員・保護者の研修の指導（講話・HUG・DIG等の指導）
  - (7) 地域の防災組織との連携へのアドバイス
  - (8) その他

※「要請されている内容を確認して、県教委・大学の担当者・技術士会の担当者・防災士会担当者に連絡する。」

- 7 事前打ち合わせの必要の有無 ※（学校・園の希望はないことが予想される）
- 8 学校・園が期待する成果

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会の主な意見

第2回学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会議事録から抜粋

- 毎年少しずつ課題を解決しながら、地道に学校防災の取組みを継続していることが重要であり、今後もぜひ継続してほしい。
- 本事業成果の普及の観点から、実際に取り組んだ学校の代表者が、防災教室講習会において語ることは大変有意義であると考えます。ぜひ、実施の方向でお願いしたい。
- 本事業の効果的な運用について、活用する学校（園）は、隣接する学校（園）に加え、特に保育園や認定こども園等にも声かけをし、オブザーバーとして参加を促すなど、地域全体へ波及するような視点を持ち、実践していくことが大切である。
- 高校生は、2・3年すると卒業し、近い将来には地域防災の担い手となることから、本事業の活用と同時に、高校生が参加し、即実践できるような取組みを要望したい。
- 多くの学校は、避難所に指定されており、地域や行政との連携から、受け入れる体制やその準備など、様々であると思うが、まずはできることから少しずつ取り組んでいきたいと考えている。そのために、消防署や危機管理部局等への支援をお願いしたい。
- 「本県は、比較的災害が少ない」という本県民の意識改革、ひいては行動変容にもつながるよう、啓発する重要性を再認識できた。特に、本事業の報告にもあるように子どもから保護者（大人）へ伝えることは、大変効果的であり、多くの学校での実践を期待したい。
- 「子どもの命を守るために、教職員の行動が大切」という言葉から、改めて日頃の訓練の内容が大切であると痛感した。また、毎年同じような訓練の実施で満足するのではなく、「課題を見つける訓練」を行うことを考えていきたい。
- 本事業を申請したくなるような工夫があれば、もっと活用率が向上するのではないかと。例えば、申請を検討している学校（園）の課題や弱点がわかるようなチェックリストを作成し、それに対して本事業で確認できる内容等を示していただくとありがたい。
- 学校内の訓練を、第三者の目で客観的に見て、助言を受けることは重要と認識している。具体的な体験として、校内の避難訓練時に地域（学校所在地の自治体）の代表者を招き、助言を求めた際、学校周辺にある電線が断線したり、倒れたりした際、児童生徒が避難している経路に影響するのではないかと指摘であった。
- 子ども自身が自らの命を守り、危険予測する力などを高められるよう教育する大切さを改めて再認識した。特に、高校生には力を借りることも想定しながら、発達段階に応じた防災教育について検討していくことを感じた。
- 安全の追求にはゴールがない。学校からすると、どこまでやればよいのだろうか。達成目標があれば取り組みやすいのではないかと。
- これまで希望する学校（園）への派遣であったが、10年目を契機に、地域を指定して学校間や校種間の連携を図るようなことを検討してはどうだろうか。
- 学校と地域・行政・関係機関等の連携が重要であることを認識したうえで、学校だけでは解決できないような問題は、地域防災計画にあげて検討してはどうだろうか。



## Ⅱ 各学校（園）の取組

### 1 防災計画や危機管理マニュアル等への助言



## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	宇多津町立宇多津幼稚園
派遣内容	防災計画、危機管理マニュアルや引き渡し訓練に対する助言
日時	令和2年8月24日（月）9:30～11:30
場所	会議室
対象者数 参加人数	教職員 2名
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 10名 隣接する小学校 校長 1名 保護者 1名 県教委 1名 町教委 2名 町危機管理課防災担当 1名 防災アドバイザー 4名
内容・日程等	9:30～10:30 防災計画・危機管理マニュアルに対する助言 10:30～11:30 引き渡し訓練に対する具体的指導
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップから読み取れる危険箇所や地理的な条件からの被害想定の話（特に上流域の豪雨が下流域へ及ぼす被害や震度6強での液状化現象など）を聞き、災害に対する意識の甘さを感じた。いろいろな場合を想定して危機管理マニュアルや訓練の見直しを図っていくようにしたい。</li> <li>・非常事態では、一人一人が今何をしなければならないか考え、代理の業務を補いながら連携して行動していく必要性を感じた。</li> <li>・小学校を避難場所にし、引き渡しの際の経路など具体的に決めていくことができた。一方で災害時には保護者へ引き渡すことばかり考えていたが、アドバイザーから被害想定で保護者が迎えに来れない場合や帰る家が安全かどうかはわからないとの指摘を受け、子どもたちの安全を最優先することの大切さに気付かせていただいた。適切な避難場所や留め置く場合の物資の調達など内容を掘り下げ、防災計画作成に生かしていきたい。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の引き渡し訓練の内容を検討する。</li> <li>・防災計画・危機管理マニュアルを見直し、作成する。</li> <li>・非常食・飲料水を、備蓄する。</li> </ul>

## 【事業当日の様子】

防災計画・危機管理マニュアル・引き渡しに関する意見交換や指導助言を受けている





## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三豊市立認定こども園 山本幼稚園
派遣内容	ハザードマップを基にした避難経路、避難方法についての助言
日時	令和2年8月27日（木）13:00～14:00
場所	三豊市立認定こども園 山本幼稚園
対象者数 参加人数	教職員 11名
外部より当日参加した 防災関係者	
内容・日程等	<p>13:00～13:10 園からの説明</p> <p>13:10～13:30 ハザードマップから幼稚園周辺の危険個所の把握</p> <p>13:30～13:45 災害時の避難経路について協議</p> <p>13:45～14:00 地域連携について</p>
取組における成果	<p>○ ハザードマップを見ながら園周辺の起こりうる災害について話し合い、専門的な立場から災害時の行動について教えていただいた。地域での避難場所の話から、人との繋がりや地域交流の大切さに気付かせていただいた。</p> <p>○ 園内の危険個所についての話から、園内の見直しをしなくてはならないと気付き、職員の安全意識が高まった。次回までに、園内の危険個所のチェックと改善を行いたい。</p> <p>（園内）本棚・掃除道具入れ・オルガンなどの固定について 棚に置いている様々な物の置き場や固定について</p> <p>（園外）フェンスに鍵がかかっているので避難時の対応について フェンスが壊れているときの対応について 園周辺が洪水や土砂崩れなどで孤立した時の対応について</p> <p>○ これらを次回までに考えたり改善したりしておく。また、これから地域にも声掛けをしていきたいと考えている。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員間で話し合い、園内を検索しながら共通意識をもち、上記の問題点の改善を行う。</li> <li>・ ご指導いただいたことを基に避難経路について話し合う。</li> </ul>



【園内研修の様子】

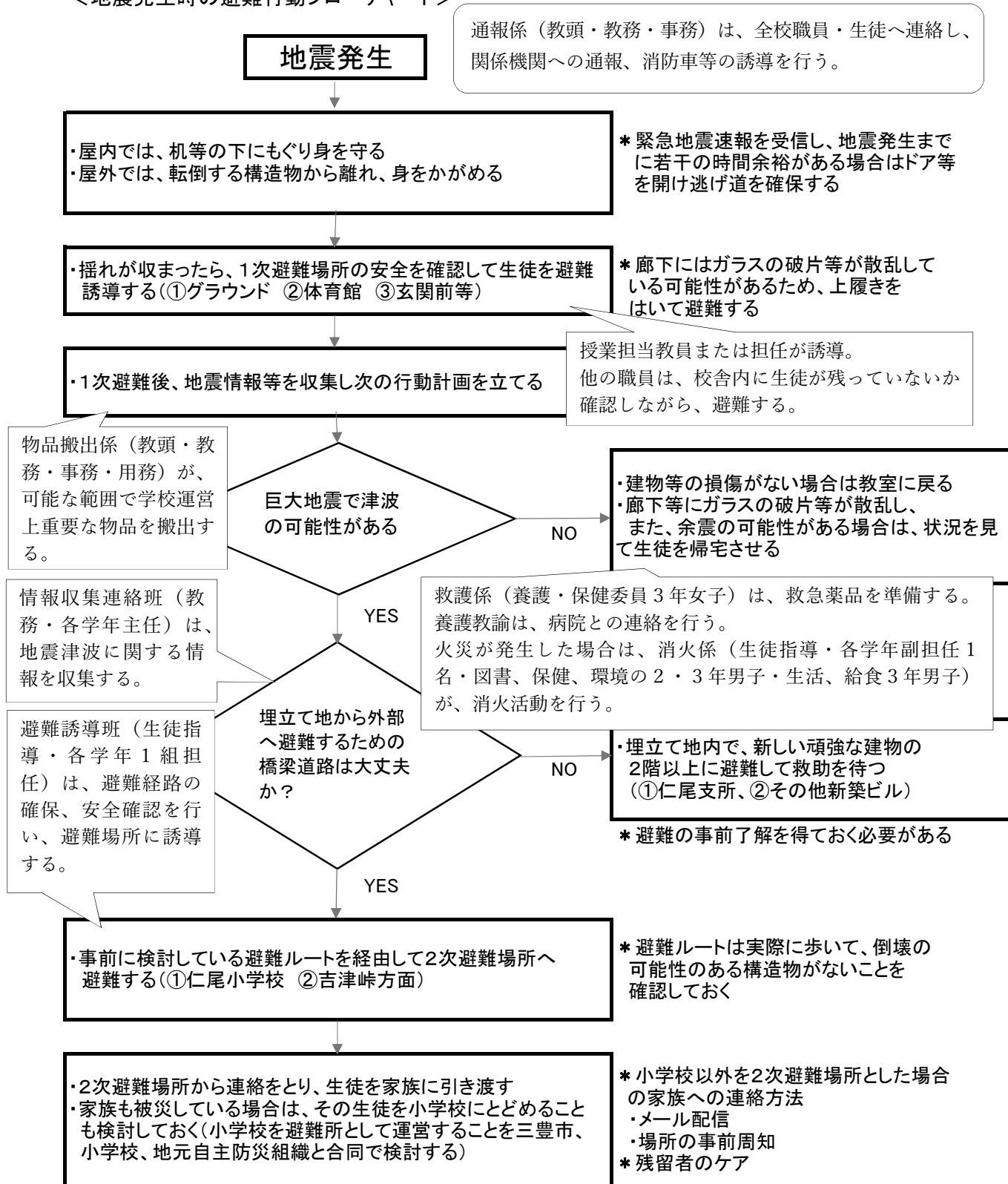
## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学 校 ( 園 ) 等 の 名 称	三豊市立仁尾中学校
派 遣 内 容	適切な避難経路設定のための助言
日 時	令和2年8月5日(水) 10:00 ~ 12:00
場 所	仁尾中学校
対 象 者 数 参 加 人	教 職 員 約2名
外 部 より 当 日 参 加 し た 防 災 関 係 者	参加者合計 6名 その他(三豊市危機管理課) 2名
内 容 ・ 日 程 等	避難経路や避難場所の設営について、また、大地震に備えた実効性のある防災・避難訓練等についての助言
取 組 に お け る 成 果	<p>当日は、県から4名、市の危機管理課から2名の参加を得て、専門的な立場から多くの知見をいただいた。以下は、その主な成果である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難経路について 本校は埋め立て地であり、水路に囲まれている。津波が来た場合には、その水路から水があふれる可能性がある。水路には、橋が3本架かっている。どの橋が安全かは、実際に震災が起こってみないとわからない(5年に1回は点検している)が、3本とも崩れるなどして使えなくなる可能性は低い。まず、一時的には体育館かグラウンド、あるいは生徒玄関前の広い場所に避難し、少し高いところにある仁尾小学校への2次避難を考えておくことよ。ただ、3本の橋のうちどの橋が通れるか、どの建物が安全かは、災害の種類や被害の大きさにもよるので、1次避難、2次避難ともに、様々なことを想定しておく必要がある。</li> <li>○ 避難所(本校体育館)の運営について 本校の体育館は、避難場所に指定されているが、大地震のときには海に向かって避難することは考えにくい。(豪雨災害等での使用が予想される)本校が避難所となった場合も、本校職員は、まず、生徒の命を最優先にすることが大切である。可能な範囲で避難所の運営をすることになる。</li> <li>○ 避難訓練等について 実際に避難経路を歩いてみて、危険箇所等を確認しておく必要がある。できるだけ広い道路を使うようにすることや通るべきではない道路などを把握すること、また、小学校や地域の防災マップ等を活用して、避難経路の候補を決めておくことが大切である。</li> <li>○ 日頃からの防災意識について 避難所になる体育館の鍵やトランシーバーなど、必要となるものの保管場所の共通理解を図っておく。また、実際に災害が発生した際に、職員一人ひとりがどのように動くのかをもっと具体的に考えておく必要がある。等。</li> </ul>
今 後 の 課 題	災害発生時のフローチャートを作成する。また、避難訓練を実施して実際の動きを具体化し、避難経路や役割分担を職員全体で再確認する。



【質疑応答の様子】

<地震発生時の避難行動フローチャート>





## 2 学校と保護者、地域、関係機関等と連携した避難訓練や 防災教育等への助言



## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	宇多津町立宇多津幼稚園
派遣内容	防災計画、危機管理マニュアル、引き渡し訓練に対する助言
日時	令和2年10月27日（火）13:15～15:15
場所	園庭・宇多津小学校グラウンド・会議室
対象者 参加人数	園児 67名 教職員 11名
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 6名 防災アドバイザー 4名 保護者 1名 町教委 1名
内容・日程等	13:25～14:00 地震からの避難、引き渡し訓練 14:00～14:30 ①防災計画・防災マニュアルに対する指導助言 14:30～15:15 ②引き渡し訓練に対する討議、アドバイザーの指導助言
取組における成果	<p><b>【①における指導と改善点について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動→立地条件にもよるが、すぐ外に出たほうがいい場合もある。</li> <li>・マニュアルの中に、緊急地震速報が鳴ってからの行動の記載が必要→内容を見直し加筆する。</li> <li>・避難場所設定で雨天時や厳寒期は→避難場所を宇多津小学校ピロティにする。</li> <li>・安全な誘導→ピアノに転倒防止具を取り付ける。他に揺れて動くものがないか調べておき、出入り口2か所には飛散防止フィルムを貼る。</li> <li>・自由遊びの時の避難は、あらかじめ安全スポットを周知しておき、園児が自分で判断し、そこへ行けるようにしておく→鬼ごっこの要領で遊びに取り入れてみる</li> <li>・全員避難した後や園児の避難場所に目印をおく→安否を心配する保護者の為に西門にメッセージを残したり、目立つ旗を立てたりする。</li> <li>・災害時に保護者が1～2日迎えに来られない時→心配を和らげるなどの子どものケア、より安全な場所への避難、非常食や飲料水の備蓄をする。</li> </ul> <p><b>【②における指導と改善点について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所への移動は、年長からだった。→人員確認できたクラスから移動を開始する。</li> <li>・園内巡視は1人だった。→職員の役割分担を見直し園内巡視は2人です。AEDを使う場合も想定し、伝達用にメガホンを1,2台増やす。</li> <li>・移動の際の危険について→一旦車を通行止めにし、園児を先に避難させてから、通す。</li> <li>・引き渡し時にカードがない時、知らない人が来た時など→いろいろな場合を想定して園で対応を決めておく。又、被災状況が悪く、津波の危険性がある場合は、「園にいる限り子どもは大丈夫です。」と園で預かっておくこともある。</li> <li>・安否確認の為に、引き渡した後、どこに行くか聞いておく→カードの備考欄に記入する。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画・危機管理マニュアルを見直し、作成する。</li> <li>・いろいろな場合を想定して、避難訓練を計画し実施する。</li> <li>・防災について職員で改善点を話し合ったり、役割を補い合えるようにしていく。</li> </ul>



部屋の中央に集まって避難



人数確認後第1避難場所に移動



第1避難場所で防災アドバイザーの話を聞く



第1避難場所での引き渡しの様子



訓練後の討議・指導助言



- ①、②、③・・・本人を含め、兄弟姉妹を小さい学年から全員ご記入ください。

※引き渡し時は上のお子様のところへおいでください。

	組	お子様の名前
①	組	
②	組	
③	組	

- 迎えに来ることができる可能性の高い順に下記にご記入ください。

	氏名	お子様との 関係	連絡先	幼稚園 チェック欄
1			電話 ( ) 携帯 ( ) どの地域から ( 市・町)	※(引き渡し後の所在を記入する)
2			電話 ( ) 携帯 ( ) どの地域から ( 市・町)	
3			電話 ( ) 携帯 ( ) どの地域から ( 市・町)	

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三豊市立認定こども園 山本幼稚園
派遣内容	避難訓練・耐震対策の視点からみた園内の環境について
日時	令和2年9月30日（水）10:00～11:30
場所	三豊市立認定こども園 山本幼稚園
対象者数	幼児児童生徒 約136名 教職員 22名 クラス数 7 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した防災関係者	
内容・日程等	10:00～10:30 避難訓練 10:30～11:20 避難訓練についてのご指導 11:20～11:40 園内の危険個所見回り
取組における成果	<p>（避難訓練）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 訓練は成功を目指すのではなく、課題を見付けるもの、その課題への対応策を考えていくことが大切であることを教えていただいた。</li> <li>○ 子どもがパニックになる、スタッフが全員は揃っていない、避難経路がふさがれている、放送機器が故障するなどのトラブルを意識した訓練をすること。いろいろなパターンを想定することで職員の意識が高まることを教えていただいた。また、困っているクラスに気付き助けることが出来る職員関係を築いていきたい。</li> <li>○ 地震の訓練は揺れがおさまったタイミングが分からず、いつ防災頭巾を被ればよいか分からなかったが、揺れる時間を決めるなどのアドバイスをいただいた。</li> <li>○ 避難経路の確認ができていなかった。一番大切なことが経路の確保であることに気付くことができた。</li> <li>○ 防災頭巾の置き場を共通理解しておくこと、窓を開けるのは最小限でよいこと、最優先は命であることを教えていただき、今後の避難訓練で取り入れていきたい。</li> </ul> <p>（園内の危険個所見回り）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設巡回の中で危険個所に気付けた。また、対策方法もアドバイスをいただいた。</li> <li>○ 正しい転倒防止用グッズの使い方を教えていただいた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教えていただいたことを取り入れながら避難訓練の仕方を考えていきたい。また、一つの方法にとらわれず、様々な場面を想定して行っていきたい。</li> <li>・ 火災報知機の音を子どもたちにも聞かせておき、びっくりしすぎないような配慮をしたい。</li> </ul>

【園内研修の様子】



【避難訓練】



【園内研修】



【園内巡回】

## 地震・火災避難訓練

行事名	避難訓練(9月)	月日	令和2年9月30日(水)
ねらい	○ 自由遊び中、地震後火災が発生した時の避難の仕方を知る。		
時間	内 容	保育者の援助	
10:00	<p>自由遊び（予告なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地震発生 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震の放送が聞こえたら放送をよく聞く。</li> <li>・ 机の下に隠れる。</li> </ul> </li> <li>○ 火災発生(職員室湯沸場) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震後に火災が発生したという放送をよく聞く。</li> <li>・ 保育者の近くに集まる。</li> <li>・ 防災頭巾を被る。</li> <li>・ 保育者の話をよく聞き、静かに集まり安全に避難をする。</li> </ul> </li> </ul> <p>(準備物)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難リュック ・ヘルメット ・防災頭巾</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保育者の誘導で安全を確認しながら園庭へ避難する。</li> <li>○ 幼児誘導保育者は、子どもが避難したことを確認した後、主任または園長に出席数と避難した幼児数、職員数を報告する。</li> <li>○ 各担当・役割分担について報告する。</li> <li>○ 防災アドバイザーの方の話を聞く。</li> <li>○ クラスの保育者の指示を聞いて移動する。</li> </ul> <p>(準備物)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・靴拭き雑巾</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大きな音に不安を感じる幼児のそばで寄り添ったり、安心できるような声掛けをする。</li> <li>○ 頭を守ることの大切さを伝え、自分で守ろうという気持ちをもてるようにする。</li> <li>○ 担任から離れないように声をかけたり、「おはしも」の合言葉を思い出しながら安全に避難できるよう誘導する。</li> <li>○ 見回りの担当者は安全を最優先としながら残留児がいらないか確認する。</li> <li>○ 素早く人数確認をし、少しでも早く残留児がいる、いないを把握できるようにする。</li> <li>○ 転んだり、逃げ出したりする幼児がいると想定される。危険な場面が見られたときは、クラス枠にとらわれず職員間で協力し合うようにする。</li> </ul>	
反 省 点	<p>(3 歳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放送をよく聞いて避難できていた。靴を履いて逃げる理由をもう一度クラスで確認した。</li> <li>・ 机の下に避難した際に、慣れからか笑っている子がいた。避難訓練後に紙芝居を読んで災害の怖さや避難訓練の大切さを伝えた。</li> </ul> <p>(4 歳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火災が職員室なのに横を通って駐車場に避難したのだが、危ないのではないかと感じた。</li> <li>・ 園庭に出るタイミングで防災頭巾を被るようにした。スムーズに避難ができた。</li> <li>・ 実際に揺れないので音では地震と思わず、声をかけてようやく避難した。</li> </ul> <p>(5 歳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員が休んでいた場合の動きややるべきことの優先順位を考えなくてはいけないと思った。</li> </ul> <p>(裏園庭)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全く聞こえないというわけではないが聞き取りにくい。プールは聞こえない。気付いた職員が声を出して周りに伝えるようにしたり、のぞみあたりに拡声器や災害を知らせる旗のようなものを用意するといったのではないかと考えた。</li> </ul> <p>(多数意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震時に子どもの避難(机の下)を優先し、職員はすぐにヘルメットをかぶるという意識がなく、職員の安全についての意識が薄かったと反省した。</li> <li>・ 第 2 次避難所への誘導時に走り出した子がいた。本当の災害時は避難訓練の通りにはならないと感じ、職員同士で連携し合う大切さを感じた。</li> </ul>		

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	さぬき市立さぬき南小学校
派遣内容	危機管理マニュアル改善に対する助言と実際に行う引き渡し訓練に対する助言
日時	令和2年6月26日（金） 14：00～16：00
場所	さぬき南小学校 校長室、運動場
対象者数 参加人数	幼児児童生徒 約280名 教職員 約21名 クラス数 13クラス（特別支援学級 3クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加予定合計 200名 隣接する学校（園）さぬき南幼稚園 30名 保護者 170名
内容・日程等	14：00～14：30 危機管理マニュアルについての助言 14：30～16：00 引き渡し訓練の観察・助言
取組における成果	<p><b>【事前活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にアドバイザーに危機管理マニュアルを確認してもらい、課題を洗い出してもらうようにした。</li> <li>・昨年度の反省を受けて、できるだけ早い時期に幼小合同の引き渡し訓練を実施するようにした。訓練実施日の午前中には、小学校5・6年生を対象に「水害、土砂災害から命を守る」というテーマで防災学習会を行い、防災意識をより高められるようにした。</li> <li>・職員会議では、危機管理マニュアルを基に、児童引き渡し訓練の詳細について全教職員で共通理解を図った。「いつ、誰が、どのような動きをするのか」等、不明確な部分について、確認を行った。</li> </ul> <p><b>【中心活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルについては、災害時のスクールバス運行について具体的に想定しておくこと、外部機関と円滑に連携するため複数の通信手段を確保しておくこと、教職員や児童の心のケアの仕方について具体的に検討することなどを指導して頂いた。また、それぞれの内容について、新型コロナウイルス感染症対策の内容を付け加えるよう助言を頂いた。</li> <li>・引き渡し訓練については、教職員及び児童・保護者の目的意識を高めることが必要だと指導を頂いた。毎回の訓練のねらいを明確にした上で実施し、振り返りを行うことが効果的だとアドバイスを頂いた。</li> </ul> <p><b>【事後活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練後の終礼において、全教職員で課題と改善案を協議した。幼稚園での協議内容を紙面で確認した。</li> <li>・「さぬき南小学校防災の日」には、訓練の事前と事後で振り返りカードを十分に活用するようにした。</li> <li>・避難訓練の様子を「校長便り」やHPに掲載し、保護者啓発を行った。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員や児童の防災意識を高める工夫を行うこと。</li> <li>・本事業を活用し、再度マニュアルの見直しや検討を行い、修正等につなげていくこと。</li> </ul>



【幼稚園との合同引き渡し訓練】



【アドバイザーとの協議】

## さぬき南小学校災害発生時の児童引き渡し要領

## 引き渡しの流れ

- 1 学校（教頭）から保護者へメール配信を行う。
- 2 保護者は「児童受け取りカード」を持参して学校に行く。（車は運動場に縦列駐車）
- 3 学校（地区担当教職員）は、上記カード等を基に保護者確認を行い、児童を引き渡す。

## 1 警報発令と引き渡し

在校中に、大雨警報が発令された場合、下校は、保護者への引き渡しを原則とする。

『大雨警報が発令されました。保護者の方は児童受け取りカードを持ってお子様のお迎えをお願いします。』

## 2 教職員の動き

担当	内 容
教頭	・大雨警報発令状況を校内放送し、教職員・全校児童に知らせる。 「大雨警報が発令されましたので、5校時まで授業を行い、児童引き渡しをします。5校時終了後、下校できるようにご準備ください。体育館に14時半に地区ごとに集合してください。」 ※体育館入口に地区引き渡し配置図を貼っておく。
各担任	・教頭の警報発令状況の校内放送を聞いて、5校時終了後、児童に帰りの用意をさせ体育館に集合させる。 ・体育館に行く前に児童玄関によって下靴を持っていかせる。地区、通学班ごとに整列させる。 ※所属地区と通学班の地区が異なる児童については、通学班の地区の場所で引き渡す。
教頭	・引き渡し開始時に保護者あてにメールを流す。
各地区担当	・引き取りに来た保護者に引き渡す。（下の3の要領で） 徒歩下校・児童館利用児童は、整列後、校長と低学年児童玄関に移動して引き渡し終了後に下校させる。スクールバス利用児童は、スクールバス担当者と15時40分頃スクールバス乗り場に移動させる。

## 3 引き渡しの方法

- (1) 学校に保管してある『児童引き渡し票』に基づいて行う。
- (2) 児童の引き渡しは、『児童受け取りカード』を持参した方で、引き渡し票に記載されている方に行う。カードを忘れた方は、保護者確認ができるまでお待ちいただくことになる。（児童本人が保護者・家族であることが確認できたら、引き渡し可とする）
- (3) 引き渡し票に記載していない方が引き取りに来られても、確認できるまで引き渡せない。すべての児童の引き渡しが完了し、その後確認してから引き渡す。
- (4) 災害発生時は、通信手段の混乱が予想される。児童の安全確保を優先するため、教職員は、基本的に電話での問い合わせに対応しない。

## 4 迎えに来られた方の動き

## (1) 自動車の場合

- ① 交差点『さぬき南小学校入口』から南に入り、運動場東門に進む。
- ② 東門から運動場に入り、並んでいる車の列の最後尾に並び、流れに沿って進む。
- ③ 各列の先頭になったら、西向きのまま車を止める。
- ④ 車から降りて体育館に入り、児童受け取りカードを提示し、続柄を伝えて子どもを引き受ける。
- ⑤ 帰宅は、運動場西門から出る。
- ⑥ 交差点での混雑を防ぐため、10号線を東側から左折にて侵入する。

## (2) 徒歩の場合

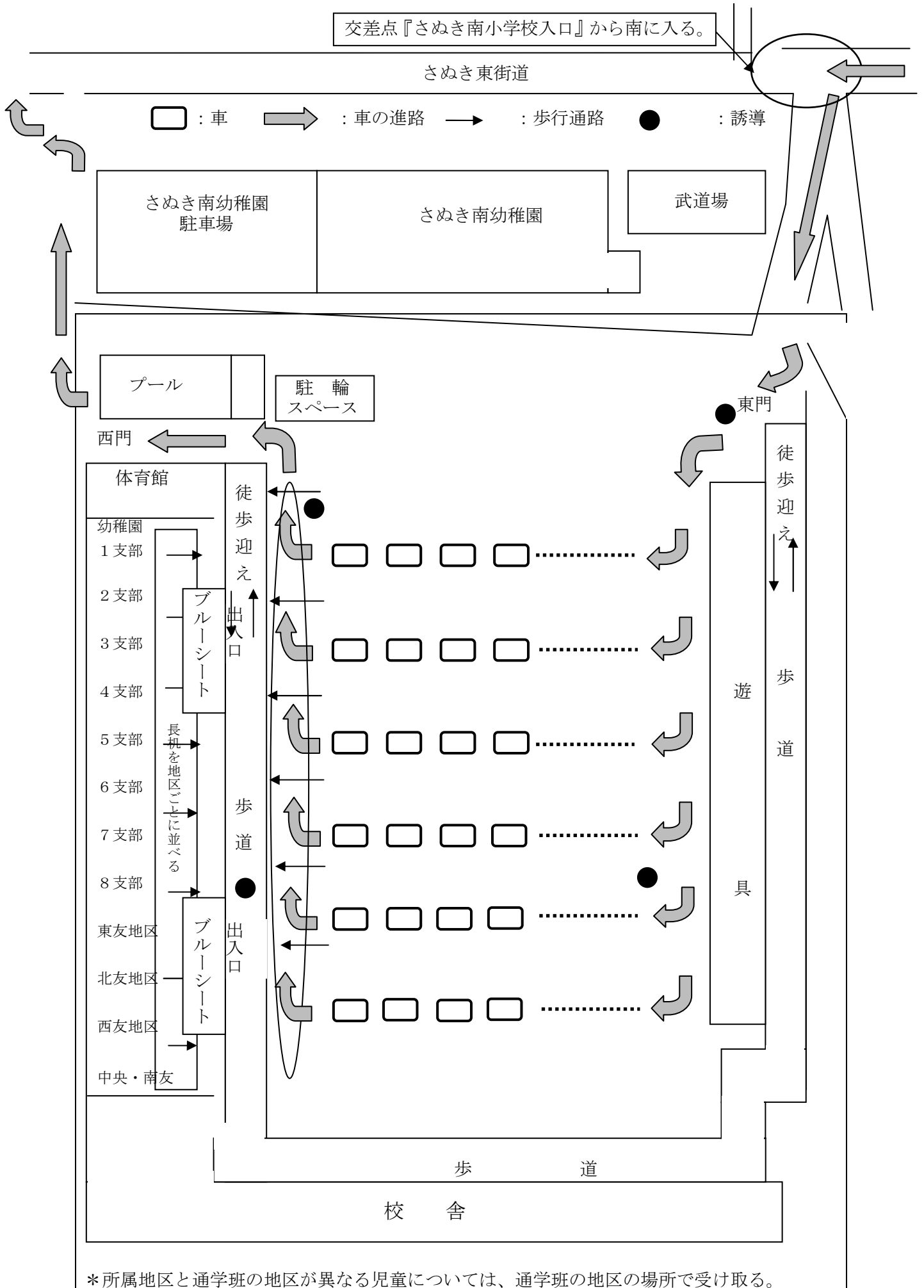
東西の門から入り、舗装通路を歩いて体育館へ行く。児童受け取りカードを提示し、続柄を伝えて子どもを受け取る。

## (3) 自転車の場合

東西の門から入ってプール東側の駐輪スペースに自転車を置き、舗装通路を歩いて体育館へ行く。児童受け取りカードを提示し、続柄を伝えて子どもを受け取る。

**※6月24日の現職教育後に確認します。目を通しておいください。**

5 運動場及び体育館周辺の配置図



\*所属地区と通学班の地区が異なる児童については、通学班の地区の場所で受け取る。

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	さぬき市立さぬき南小学校
派遣内容	消防署と連携した火災避難訓練に対する助言
日時	令和2年12月17日（木）13:30～16:00
場所	さぬき南小学校 校長室、運動場
対象者数 参加人数	幼児児童生徒 約 233名 教職員 約 21名 クラス数 13クラス（特別支援学級3クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	消防署 5名 複合火災受信機のシステム管理会社 1名
内容・日程等	13:30～15:15 避難訓練の観察 15:15～16:00 避難訓練についての助言
取組における成果	<p><b>【事前活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議では、実施計画を基に、訓練の詳細について全教職員で共通理解を図った。地震後の火災想定であったため、避難時の留意点と避難経路について十分に検討した。新型コロナウイルス感染症対策のため、校舎内のドアや窓が開いていることから、地震の時は出入り口を確保し、火災の放送があった後、児童引率係以外の職員が窓・ドアを閉めることを確認した。実際を想定し、防火扉を閉めて訓練を行うようにした。</li> <li>防災意識を高めるため、避難訓練後、4年生は起震車体験、5年生は消火体験、6年生は救助袋使用体験を行うようにした。</li> <li>保護者の防災意識を調査するために、「シェイクアウトアンケート」を実施し、結果を公表した。</li> </ul> <p><b>【中心活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員・児童の防災意識が高まっており、教職員の児童への指導が的確で、児童の避難時間の速さや避難の姿勢・態度などに表れていると指導を頂いた。一方で、机の下に避難する際には、机の脚を対角に持ち揺れに備えたり、防火扉下部の枠に足がつかないように気をつけたりするなど、より具体的に指導するよう助言を頂いた。また、複合火災受信機や防火扉などの施設を全教職員が使いこなせるよう研修会を実施する必要があると指導を頂いた。さらに、学校での防災訓練を家庭での行動につなげるために、児童が学習した防災教育をより具体的に保護者へ発信していくことも大切だと助言を頂いた。</li> </ul> <p><b>【事後活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練後の終礼で、全教職員で課題と改善案を協議した。</li> <li>避難訓練の様子を「校長便り」やHPに掲載し、保護者啓発を行った。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>中・長期的な視点に立ち、様々な災害を想定した防災教育を実施すること。</li> <li>本事業を活用し、学校安全計画の見直しや検討を行い、改善につなげていくこと。</li> </ul>



【防火扉をくぐりぬける様子】



【複合火災受信機の説明を受ける様子】

- 1 日時 令和2年12月17日（木）13：50～15：15（雨天順延）
- 2 避難の指導方針  
授業時間中に火災が発生した場合に、児童が安全な避難行動がとれるように訓練し、危険予知や『自分の命は自分で守る』態度と行動力を身に付けさせるよう指導する。
- 3 想定  
12月17日（木）の5校時始めに（13：50）に、理科室から出火し、燃焼しているため安全に速やかに避難する。
- 4 実施内容等

	実施内容等	指導事項①	指導事項②（5-1）
	① 避難訓練の意義と方法についての説明及び指導  ② 火災についての話 ・火災による直接的被害 ・避難経路、避難場所 ・避難時の注意点  ・防火扉について	○ <b>児童の発達段階に応じた避難訓練</b> の意義、地震・火災による被害や対応の仕方を指導する。 ○火災報知機のベルを聞いたら <b>静かに待機</b> し、放送による指示を待つ。避難指示が出たら、教員の指示にしたがって避難する。 ○ <b>避難の基本原則（おかしも）</b> 「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」の確認。 ○ <b>避難時の留意点</b> 避難経路の確認。窓・ドアを閉める。ハンカチで口・鼻を覆う。着帽する。煙を吸わないため、姿勢を低くする。 ○ <b>防火扉</b> 煙を感知して締まるため、防火扉の向こう側には煙が充満している場合が多い。	左に同じ
避難訓練 20分	<b>1 避難訓練を行う</b> ① 地震発生 「訓練！」 緊急地震速報の放送（教頭） （ゆれがおさまり、次の放送をしようとした時に） ② 火災報知機のベルが鳴る。 ③ 「今、2階の火災感知器が作動しました。確認していますから、次の放送をよく聞きなさい。」（教頭） ④ 原先生が送受信機を持ち、2階の火災報知機へ行行って火災を確認し、職員室に連絡する 「2階の理科室から出火しています。避難指示と消火指示をしてください。」（原） (2) 避難指示と初期消火指示の放送をする。 ① 「今、2階の理科室から出火しています。ただちに避難しなさい。」（教頭） ② 「消火係はすぐ初期消火に当たりなさい。」 消火係：原・補助教員等 通報係は、119通報をする（岡谷） 通報訓練（事前連絡をしておく） ③ 搬出係は、緊急連絡票等を持って避難する。（稲田・大河原） ④ 南棟：各階の最終確認を行う。 （各教室・便所等） 3階：佐々木、2階：東・多田 西・長野1階：杉本・池田・半田 北棟：濱田 (3) 運動場に避難後、 <b>人数確認、報告</b>	<児童> ・地震速報を聞いて、 <b>第一次避難行動（机の下に入り、頭をかばう）</b> ・大きなベルの音がするが、落ち着いて放送を聞く。 ≪教員≫ ・落ち着くよう指示する。 ・放送を聞き避難誘導を行う。 <児童> ・避難指示を聞くとすぐに、ハンカチ等で鼻と口を覆って避難経路を自分で判断して「おかしも」で素早く避難する。 ・ <b>全員南校舎より、南に出て運動場に避難する。</b> 担任の采配による。 ・ <b>4年1組・2組の児童はスクールバス駐車場から東へ出て運動場に避難する。</b> ・ <b>1年・2年は教室から南へ</b> ・ <b>3年1組・2組、6年1組は南通用口（または5組、1年教室）から南へ出る。</b> ・ <b>6年2組は図工室から正面玄関前階段から運動場へ</b> ≪職員≫ ・近くにいる児童に落ち着くよう指示し、ハンカチ、帽子等を使用して避難させる。同じ階の児童の様子を把握し、必要に応じた指示を出して避難する。 防火扉 ・ <b>東つなぎ廊下2階（1カ所）の防火扉を閉じる。</b> 原 1F東トイレ前：稲田	<児童> ・地震速報を聞いて、 <b>第一次避難行動（机の下に入り、頭をかばう）</b> 理科室で火を扱っていたら、まず、安全に火を消す。 ・火が消えず、近くの物に火が燃え移り、理科室の物が燃えだすと設定し、 <b>教員は火災報知機のベルを押し児童をすみやかに避難させる。</b> ≪教員≫ ・児童に落ち着くよう指示。 ・正面玄関前階段から避難するよう誘導を行う。 ≪他の教員または支援員≫小路 ・ <b>非常ベルを鳴らし、消火係（原教諭）と初期消火にあたる。</b> <児童> ・避難指示を聞くとすぐに、ハンカチ等で鼻と口を覆って避難経路を自分で判断して「おかしも」で素早く避難する。 ≪職員≫ ・近くにいる児童に落ち着くよう指示し、ハンカチ、帽子等を使用して避難させる。同じ階の児童の様子を把握し、必要に応じた指示を出して避難する。



	<p>をする。</p> <p>①児童は運動場に北向きに並び、静かに待機。</p> <p>②担任は児童の人数を確認する。 各担任→学年主任→教頭（→校長） 「〇年 在籍〇名、欠席〇名 現在 〇名 全員異常ありません。」 職員の安全確認（教務→教頭）</p>	<p>&lt;児童&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整列後、次の指示があるまで静かに待機する。</li> </ul> <p>≪教員≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任児童の人数確認、様子を把握する。</li> </ul>	
	<p>(4) 避難訓練の講評を聞く。（進行：教頭）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寒川分署の代表者</li> <li>・校長</li> </ul> <p>(5) 全校での訓練終了</p> <p>「以上で、全校での避難訓練を終わります。礼。1・2年生は教室に戻り振り返りをしましょう。」</p> <p>「<b>4年生は、起震車の方へ移動</b>します。3年生も一緒に移動して、見学をします。」</p> <p>「<b>5年生は消火訓練</b>を行いますので。鉄棒前に集まって下さい。」</p> <p>「<b>6年生は、3階で救助袋の使い方</b>について説明してもらいましょう。」</p>	<p>&lt;児童&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の行動を振り返りつつ講評を聞く。</li> </ul> <p>&lt;児童&gt; 教室で、振り返りを行う。</p>	
	<p><b>4年生：起震車体験をする</b></p> <p><b>5年生：消火体験をする</b></p> <p>(1) 寒川分署の方の説明を聞く</p> <p>(2) 体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生は、適当な時間で見学をする。</li> </ul> <p>○体験終了後は教室に戻り、振り返りをする。</p> <p><b>6年生：救助袋使用方法確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスごとに説明を聞く（1組と2組を入れ替える）</li> <li>・各クラス2～3名ずつ代表者が救助袋で避難</li> </ul> <p>6年担任</p>	<p>起震車・消火体験（45分程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寒川分署の方の説明、指示により、4人1組で順次、体験する。（1組4～5分）</li> <li>・一人につき1分程度の時間が必要。</li> <li>・救助袋の使用方法を確認する。</li> </ul>	

## 5 役割分担等

避難時（学級担任及び支援員は児童の避難を優先する）

分担任務	担当者	任 務
総指揮	校長	全体の指揮、監督
連絡・通報	教頭・養護助教諭・専科	周知連絡にあたる。
児童係	各学級担任	避難人数を調べ、異常の有無を学年主任がまとめ、教頭に報告し、教頭は全体をまとめて校長に報告する。避難場所で児童を保護し、状況によっては、別の避難場所に誘導する。
搬出係	事務・管理員	重要書類、備品、校具等を搬出し、作業終了後は消火などにあたる。
消火係	担任以外	近くの消化器を持ち、火災発生現場に直行し、初期消火につとめる。
警備係	長野・安西	外部からの侵入者を警戒し、さらに校内の巡視等をする。
救護係	養護教諭・少人数	火災発生とともに、所定の位置で被害者の救護をする。

## 6 その他

- ・事前に、大川広域西消防署寒川分署（43-3119）、セコム株式会社（087-821-2321）、日本システムサービス（087-882-3303）へ避難訓練の実施を連絡する。11月2日連絡済み
  - ・大川広域西消防署寒川分署に、消防訓練実施届出書を提出する。
  - ・12/16日本システムサービス来校。防火扉、救助袋についてアドバイスを受ける。
- ※非常ベルは図工室前か図書室前のどちらか近い方を押す

## 7 当日の日程

13:50～14:30 避難訓練 訓練後は、5校時の学習（振り返りを含む）

### その他

#### ○自動火災報知設備

感知器を用いて火災により発生する熱や煙を自動的に検知し、受信機、音響装置（ベル）を鳴動させて建物内に報知することにより、避難と初期消火活動を促す設備。消防用設備、火災報知機の一つであり消防法と条例により、防火対象物に設置が義務付けられている。

略称で「自火報（じかほう）設備」とも呼ばれる。

#### ○施設・設備

職員室西南の機器 ～ 向かって、左側：複合火災受信機、右側：非常放送設備

南棟3階東端の救助袋 ～ 垂直式 降下には一人につき約1分必要。

#### ○複合火災受信機について

- ・感知機が煙を検知した場合は、M1女声「ただいま〇階の火災感知器が作動しました。確認しておりますので次の放送にご注意ください。」の放送が流れる。
- ・火災報知機のスイッチを押した場合は、M2男声「火事です。火事です。〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難して下さい。」の放送がすぐに流れる。

#### ○通報訓練（さぬき市は119番）

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	丸亀市立城西小学校
派遣内容	避難訓練等への助言
日時	令和2年9月1日（火） 9：30 ～ 10：15
場所	丸亀市立城西小学校
対象者 参加人数	児童 489名 教職員 31名 クラス数 18クラス（特別支援学級 2クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	
内容・日程等	9:30～ 9:45 避難訓練参観 9:55～10:15 危機管理マニュアルや避難訓練について指導
取組における成果	<p><b>【事前活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に各学級で、①地震が発生したときにどうするか、②学校滞在時の地震の際の避難の仕方について指導した。</li> <li>・職員会では、前年度の反省を踏まえ、避難の際の階段の使い方を教職員で確認した。</li> </ul> <p><b>【中心活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の様子を参観後、児童・教員・施設の観点で助言を得る。              児童：児童が机下の姿勢              教員：児童への声かけ、想定外の事態への対応              施設：落下や移動のない物品の配置</li> <li>・より通常の状態での訓練、防火扉が閉じた状態での訓練等、今後の訓練の改善の方向の示唆を得た。</li> </ul> <p><b>【事後活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の様子は、学校HPや学校だよりに掲載し、保護者・地域の方への周知を行った。</li> <li>・避難訓練後、教職員で振り返りを行うとともに、防災アドバイザーからの助言を受け、非常時における教員の行動や校内物品の安全な配置について見直しを図った。</li> </ul>
今後の課題	・本事業を活用し、再度避難訓練や危機管理マニュアルの見直しを行い、より実効性の高い内容にしていく。



【机の下に避難】



【防災頭巾を着用し運動場へ】



【訓練の様子を講評】

## 避難訓練（地震）について

○今回の避難訓練は、学校防災アドバイザーに来ていただき、避難訓練への助言や防災に関する話をさせていただきます。

1 日時 令和2年9月1日（火） 9：30～10：15

2 想定 地震：震度4

3 避難場所 運動場（雨天時：体育館）

### 4 事前指導

- ・ 9月1日（火）ステップタイムに事前指導を行う。
- ・ 避難の仕方 ①机の下にもぐり、机の脚を持つ ②防災頭巾を被る ③運動場（体育館）へ  
④建物の中：押さない・走らない 建物の外：走って移動
- ・ 避難の際の注意 「おはしも」（押さない、走らない、しゃべらない、もどらない）
- ・ 訓練中は、音や声を出さない。笑わないで真剣に。
- ・ 担任以外の先生からの指示も聞く。
- ・ 地震が発生したときにどうするか（校内・校外）。※資料参照

### 5 訓練内容

#### (1) 緊急放送9：30（佐藤）

緊急放送。これは訓練です。ただいま、緊急地震速報がありました。教室にいる人は、机の下にもぐり、机の脚を持ちなさい。教室の外にいる人は、近くに落ちてきたり倒れてきたりするものがない場所で、しゃがみなさい。

- ・ 出入口扉・カーテン・窓を開ける（出入口の確保）※廊下側だけでなく、ベランダ側も忘れずに！
- ・ 電灯・エアコンは消す（停電復旧後の火災防止）

#### (2) 避難放送9：32（佐藤）

全員、だまって運動場（体育館）に移動しなさい。

- ・ 放送終了後、避難に要した時間の計測開始（吉村）
- ・ 避難の際、防災頭巾を着用する。上靴のまま避難する。建物の外に出たら走って急ぐ。
- ・ 避難時は、2列でも3列でもよい（学年団の指示しやすい列数で）
- ・ ③「おさない」 ④「走らない」 ⑤「しゃべらない」 ⑥「もどらない」の徹底。
- ・ 東階段を1・3・5年、西階段を2・4・6年が使用するが、臨機応変に空いている方を使う。右側2列を厳守しなくてよい。学年が混じると危険なため、学級でまとまる。  
※2学年同時になった場合は階段の内側を高学年、外側を低学年とする。
- ・ なかよし学級児童 ①運動場へ避難 ②校舎の方を向いて座らせ、なかよし学級児童を前に  
③なかよし担当がなかよし学級へ連れて行く
- ・ 学年団の避難完了後、学年主任の指示で防災頭巾を脱がせる。
- ・ 雨天時は、体育館に体育館朝礼の隊形（2列でも3列でもよい）で整列させる。

佐藤・・・緊急対応マニュアル、学校日誌 ※ 拡声器  
吉村・・・児童名簿（ピンク）、（緊急連絡カード） ※ ストップウォッチ  
養護・・・健康観察表、救急セット  
松尾・・・ガス栓閉じ、電気器具コンセント外し（訓練日は、職員室待機）  
福岡・太田・祖一・一葉・・・逃げ遅れ児童の確認（資料2）

(3) 人員確認・報告

- ・ 学級担任→学年主任  
「〇年〇組、欠席をのぞく〇名、全員揃いました。」
- ・ 学年主任→校長（教頭）（なかよしも）  
「〇年団児童、職員、全員揃いました。」
- ・ 太田・祖一・一藁・倉田→教頭  
「〇階、確認しました。」
- ・ 吉村・太田・祖一・一藁・倉田・（松尾）は教頭が確認

(4) 指導講評

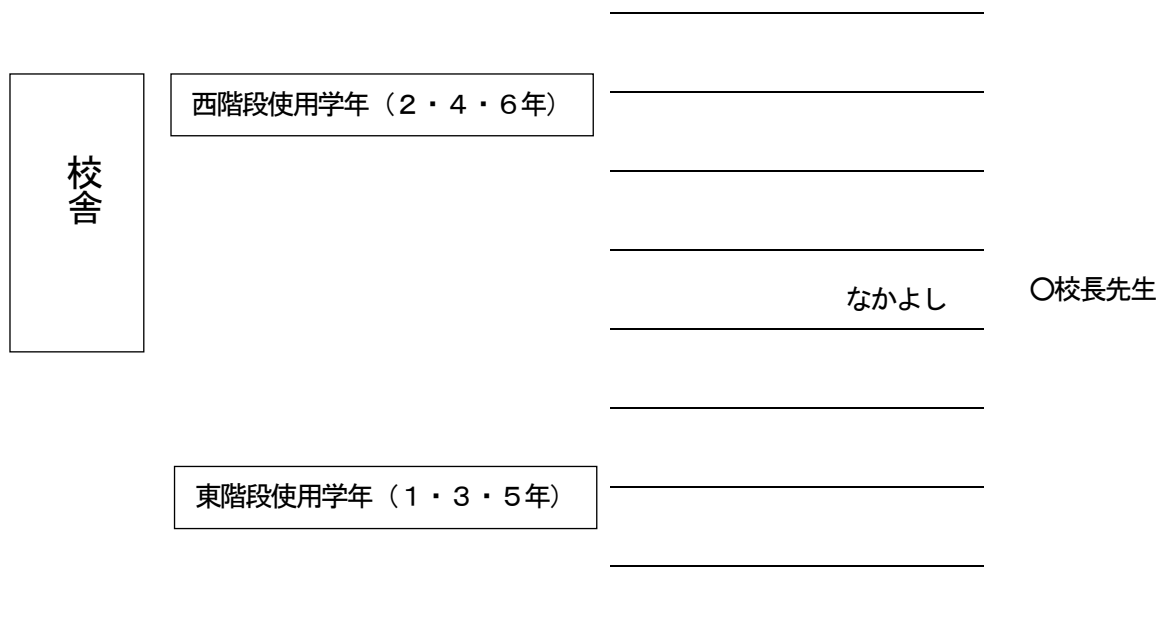
- ① 校長から
- ② 学校防災アドバイザーから（主に避難訓練に関する助言）
- ③ 教室に戻ってからの動き（佐藤）

6 事後指導（学校防災アドバイザー・各担任）

- ・ DVD 視聴「地震発生、そのとき・・・」制作著作：香川県 20分程度
- ・ 安全主任の話（放送室から）
- ・ 学級の避難の仕方、DVD の補足（各担任）

資料 1

運動場での並び方



- ・ 運動場の中央付近
- ・ 運動場へ出てきた順に中心から
- ・ 学級2列でも3列でもよい
- ・ 学年はまとまる
- ・ なかよし学級 ①運動場に避難  
②郵便局の方を向いて座らせ、なかよし学級児童を前に  
③なかよし担当がなかよし学級へ連れて行く

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	観音寺市立豊田小学校
派遣内容	避難訓練等への指導・助言、全職員への講話
日時	令和2年9月2日（水）14:00～16:00
場所	校舎内、運動場、体育館
対象者 参加人数	児童 131名 教職員 17名 クラス数 8クラス（特別支援学級2クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	
内容・日程等	14:15～14:40 避難訓練 14:45～16:00 校内点検、校内研修（講話）
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習として、地震が起きた場合、どんな危険があるか、どのように身を守るかについて、各学級で指導を行った。</li> <li>・避難訓練では、地震発生時の行動から避難場所への避難等、児童は速やかに行動することができていた。通常の避難経路（児童玄関）が通れない場合を想定して実施した。地震発生時、机の下に入ったり、避難時、帽子等で頭を守りながら避難場所へ向ったりするなど、身を守ることができていた。</li> <li>・アドバイザーから避難訓練後の児童への話では、地震があった場合、テレビなど転倒する可能性があるものが身の回りにたくさんあることを学んだ。また、身を守るために「ダンゴムシポーズ」を実演しながら話しをしていただいた。</li> <li>・校内の危険箇所を点検して、廊下、教室で転倒の可能性がある物について指摘していただいた。改善策として、PTA、地域と協力して対策を行っていくことを指導していただいた。</li> <li>・校内研修で、ハザードマップを示しながら登下校中の危険箇所について話を聞き、防災への意識を高めることができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火扉を閉じた状態がどうなっているか確かめてみるとよい。</li> <li>・避難経路を確保するために、廊下にあるものが転倒して避難の妨げにならないように固定する必要がある。</li> </ul>



【避難の様子】



【防災アドバイザーのお話】



【職員研修】

## 【事業当日の参考資料】

### 令和2年度 防災訓練(地震) 実施計画

1 目的 防災管理の徹底を図るとともに、地震による人的被害軽減のための訓練とする。

2 日時 令和2年9月2日(水) 14:15~14:40

#### 3 避難行動

14:15 地震発生の想定

緊急地震速報の音を鳴らす。

14:16 放送(地震発生による避難放送)

訓練放送、訓練放送。 只今、観音寺市周辺に、地震が発生しています。机の下に入り机の脚をもち、揺れが収まるまで動かないようにしてください。

↓ 20~30秒(担任は児童に注意点等呼びかけ続ける)

訓練放送。揺れが収まりました。児童のみなさんは、先生の指示に従って、運動場(体育館)に避難してください。

※本当の地震の時は、放送がなくても揺れが収まったら避難行動開始を指導する。

14:17 避難訓練 放送終了と同時に避難開始

※ ガラス等に気をつけ、安全を確認しながら避難する。

※ 避難場所：運動場すべり台前(雨天時：体育館)

14:19 人数確認 担任 → 教頭 → 校長

14:20 地震の避難について(教頭)

(体育館へ移動。全校集会の隊形。上靴を横に置いて集合)

防災アドバイザー

講評

(校長)

14:45 訓練終了 解散

#### 4 避難経路・場所

・避難経路は学校警備・防災計画を参照する。

・靴箱が倒れ通行できない状態を想定して行う。

(地震の被害状況に応じて、担任の判断により適宜変更する。)

・学年の位置は集合の順等に応じて変更しても構わない。

5 その他 ① 第1次避難(机の下)と第2次避難(運動場)の2段階で行うので、放送をよく聞いて行動させる。

② 避難時には 児童…消灯を確認後、上履きで避難する。

落下物から頭を保護する。

担任…出席簿(名簿)を持ち、安全を確認しながら児童の誘導・管理をする。

非常持出袋・救急箱が持ち出せる人は持って出る。

③ 避難時間の計時 安全確認優先のため、地震の時は計測しない。

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三豊市立下高瀬小学校
派遣内容	地震・洪水時避難訓練等への助言、今後の防災フェスタの持ち方
日時	令和2年9月3日（木）9：15～11：00
場所	各教室及び運動場、3階ホール、応接室
対象者数	児童193名（幼児45名） 小学校教職員28名（幼稚園8名） 小学校クラス数 7クラス+特別支援学級4クラス
外部より当日参加した防災関係者	参加者合計 5名（大学教授1名・県防災士2名・県教委1名 地域の防災士1名）
内容・日程等	9：15～10：10 地震・洪水発生時の避難訓練指導及び講評 10：15～11：00 管理職への具体的な指導・助言（応接室） （地理に応じた適切な避難場所、防災マニュアルの見直し・手本 例紹介、防災フェスタのアイデア、児童引き渡し訓練の方法等）
取組における成果	<p><b>【事前活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練の計画段階から学校担当者と事業担当者が相談し、より実践的な避難訓練をめざし、洪水時だけでなく地震と連動した避難訓練に変更した。ステップを踏んで、数ヶ月後には、抜き打ち避難訓練などを実施することにした。地理に応じた適切な避難場所や防災マニュアルについてもご指導をいただき、参考になった。</li> </ul> <p><b>【中心活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初めて防災ヘルメットや防災頭巾を活用した避難の様子を見ていただき、様々な角度から気になる点を指導していただいた。地震発生時の効果音については褒めていただいた。</li> <li>教員は避難時に児童へ声かけを行い、少しでも安心感をいだかせるようアドバイザーから助言があった。また廊下に配置している移動式TVやロッカーや本棚等の移動や落下等を想定した行動であったかを児童・教職員ともに問われた。以後の避難訓練では、教職員同士が様々なケースを確認しあう姿が見られた。</li> </ul> <p><b>【事後活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災フェスタに向けての助言をいただき、これまで不十分だった「児童引き渡し訓練」にも力を入れて取り組むことができた。事前事後の振り返りをするすることで、児童や保護者の防災に対する意識が一層高まった。</li> </ul>
今後の課題	<p>より実効性のある防災学習、避難訓練を行うために、児童に何を学ばせるのか、ねらいを明確にしておく必要がある。</p> <p>教職員自身が、常日頃から危機意識をもって行動できるように、共通理解しておくことが大切である。</p>





【防災アドバイザーによる指導・助言】



【初めて防災ヘルメットを着て避難訓練：地震想定】



【幼児も一緒に避難訓練：洪水時避難】



【3階の高いところへ避難・防災士のお話】

令和2年度 地震発生・洪水時の避難訓練

三豊市立下高瀬小学校

- 1 日 時 令和2年9月3日(木) 9:30~10:10 ※10:15~11:00 管理職協議
- 2 場 所 三豊市立下高瀬小学校 (香川県三豊市三野町下高瀬760番地1)  
TEL 72-5401 FAX 56-2422
- 3 参加対象 児童 193名 + 幼稚園児 44名 教職員 約30名

※アドバイザー 香川大学 県防災士会

- 4 訓練の種類 授業時における地震・洪水発生に対応した避難訓練と指導講話
- 5 ねらい  
○ 地震・洪水発生時の避難訓練を実施し、児童が集団の中で安全に静かに迅速に避難できる態度と習慣を身に付ける。また、教職員は、地震・洪水発生時のそれぞれの動きについて確認し合う。

- 6 想定  
○ 南海トラフ大規模地震発生(震度6強をイメージ) 運動場へ一次避難  
○ その後、高瀬川の堤防が数カ所決壊し、学校に水が流れてくる。後には津波もやってくる。  
○ 洪水発生のため、3階ホールへ二次避難

- 7 事前指導  
(1) 南海トラフ大地震の発生の可能性や今回の訓練について、教師が話をする。  
「地震の規模」「予想される災害」「防災頭巾や防災ヘルメットの役割」など  
(2) 地震発生時に想定される危険について  
・落下物(ガラス・蛍光灯)・棚の倒壊・電線の切断・ガス漏れ・水道管破裂・地割れ  
・火災による被害(ハンカチなどを携帯しておく) ・パニック(慌て、驚き等による個人行動の危険性)

- 8 日 程  
9:10~ ※ 事前に、地震・洪水発生による避難時の行動等について学級で指導しておく。  
(1) 事前指導、防災頭巾、防災ヘルメット着用の練習(今年度初めて使用)

9:35 地震避難訓練開始

- (2) 「緊急地震速報」の鳴動音を放送で流す。  
身を守る行動 → 避難放送(教頭)  
「全校のみなさん、大きな地震です。落ち着いて行動してください。今から、防災頭巾やヘルメット等で頭を守りながら、運動場に避難しなさい。先生の指示に従って、慌てず、運動場へ避難しなさい。」  
※担任は、出席簿持参  
(3) 担任の指示で運動場に避難・待機  
(4) 人数確認、担任→教頭→校長に報告  
(5) 学校長のお話(萬亀 弘吉)1分程度  
教頭「地震はおさまりましたが、高瀬川の堤防が決壊し、洪水がおきています。津波の恐れもあります。今から3階に避難します。先生の指示に従って避難しましょう。」

- ※「高瀬川の堤防が決壊、または津波」を想定して  
9:45 洪水時の避難経路確認(3階へ移動)

- (6) 運動場から3階へ避難移動(担任引率のもと、小さい学年から) 様)1~3分程度  
(7) 講評 指導者代表: ( 様) (5分程度)  
地域代表:防災士 (

- ① 地震発生時  
・身を守る3つの安全確保行動(1分間)  
まず低く、頭を守り、動かない  
※机の下にもぐり、机の足を持つ。  
※机がない場合は、落下物がないところで、低い姿勢をとる。  
※教師の指示で運動場に避難する。  
② 洪水発生時の避難(場所確認)  
- 3階ロビーへ移動・避難

【事業当日の参考資料】

【事前・事後学習でも活用した県や市の冊子】

一定期間、家庭に持ち帰り、自主的に調べたり、家族と話し合って書き込んだりして、防災意識を高めた。



【振り返りカード】

9月3日 6年

じしんばつせい じゅうずいし ちゅうじんかみん  
地震発生・洪水時の避難訓練のふりかえり

①	地震のとき、身を守る安全な行動ができましたか。 ・まず慌く・窓を守り・動かさない	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> どちらでもない
②	「おかしも」の約束がまもれましたか。 ◎きかない ◎けかない(ほしらない) ◎やべもならない ◎どららない	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> どちらでもない
③	いのちを守るために、これから防災についてもっと考えようという気持ちになりましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> どちらでもない

かんそう (心にこったこと、学んだこと、考えたことなどをおうちの人もつたえましょう。)

地震はいつ起こるか分からないので、本当に起こったときでも、あびやく行動できるようにしたいです。そのために家族と防災会議を開こうと思いました。いのちを守るために、これから、防災や避難のときに気をつけること、持ち出す品や防災グッズなどについて考えたりしていきたいです。

おうちの入り  
想像いせ震や洪水がおこるとどどこかわかれ、でも、おこった場合に備えて、準備でること、身を守る避難場所について考える、とこいふ、機会になつたね。

おうちのへ  
9月3日、学校防災アドバイザーの方をお招きして、震度6を想定した避難訓練を実施しました。防災頭巾やヘルメットを装着して、避難経路と一緒に参加しました。訓練をするにあたって、三重県からは、避難経路確保(おかしも)はん、防災ノート、ペナルティをいただきました。持ち帰る防災グッズ。防災士の方から「いのちをつなぐ防災ノート」を家庭で活用して役立ててほしいというお願いをいただきました。10月15日の防災フェスタまでの間に、親子でできるページを選んでチャレンジしてください。「考えれば悪いなし」です。これをきっかけに防災意識を高めましょう。勇気のない程度で、ご協力をお願いします。防災ノートは10月15日頃までに学校に持たせてください。

児童の感想・保護者の言葉（振り返りカードより）

- 地しんや洪水になったとき、どこにひなんしたらよいか、わかりました。もし、災害になったら「おかしも」の約束で ひなんしたいです。(小4)
- 心に残ったことは、「自分のいのちは自分で守る」ということです。今日やってみて、地震や洪水は、すごく怖いということがわかりました。家でもいろいろな対策をしたいと思うようになりました。(小6)
- 非常持ち出し品を書き出して、玄関に用意することにしました。子どもと一緒に防災について、もっとしっかり、話し合います。(保護者)
- 予想以上のことが、どこで起きてもおかしくない世の中なので、命を落とさないようにちゃんと準備したいです。家族で避難場所などの話をしておくことが大切です。防災ノートを読んで活用したいと思います。(保護者)

10月20日 防災フェスタ参加・児童引き渡し・引き受け訓練



【地域の方と避難所設営】

【段ボールでベッド作り】

【地震体験：震度6】

 <b>児童引き渡し 児童受け取りカード</b> 三豊市立下高瀬小学校 電話番号 0875-72-5401		
学年		
姓		
名		
児童氏名		

受け取り者氏名	関係	電話番号



【児童引き渡し・受け取り訓練】

【新しく作成した児童受け取りカード】

保護者各位

2020年10月～

三豊市立下高瀬小学校災害発生時等の児童引き渡し要領

引き渡し手順

- 1 学校からメール配信
- 2 保護者は「児童受け取りカード」を持参して学校に行く。
- 3 学校は、上記カード等を基に保護者確認を行い、児童を引き渡す。

☆ 災害時や緊急時に安全にかつ正確に児童を保護者の方へ引き渡すためにカードの提示をお願いします。

1 引き渡しと編成

- (1) 在校中に、震度5以上の地震が発生した場合、下校は、保護者の引き渡しを原則とします。震度5以上の場合は、メール配信がなくても、「児童受け取りカード」を持ってお子さんのお迎えをお願いします。
- (2) 在校中に、震度5強未満の地震が発生した場合、状況に応じて集団下校となることもあります。その場合は、可能な方法で保護者に連絡してから下校させます。

○メール配信の例

「三豊市に震度5の地震が発生しました。保護者の方は道路等の安全を確認した後、「児童受け取りカード」を持って、お子さんのお迎えをお願いします。」

2 引き渡しの方法

- (1) 「児童引き渡し票」に基づいて行います。
- (2) 児童の引き渡しは、「児童受け取りカード」を持参した方で、「児童引き渡し票」に記載されている方に行います。カードを忘れた方は、確認のため、当日、所定の用紙に氏名等を記入して担当に提出してください。確認ができるまで、お待ちいただく場合がありますので、ご了承ください。
- (3) 災害発生時は、通信手段の混乱が予想されます。児童の安全確保を優先し、教職員が対応しますので、電話での問い合わせに対応できない場合があります。予め、ご了承ください。
- (4) 引き渡し票は、訂正等がありましたら、担任にお知らせください。
- (5) 「児童受け取りカード」が数枚配布されたら、必要事項を記入して、各自で保管をよろしくをお願いします。緊急の場合にいつでもすぐに使用できるように、保管場所を工夫してください。3年間、使用しますので、大切にしてください。必要枚数が不足しているときは、学校まで申し出てください。  
※「児童受け取りカード」の説明は、別紙

3 迎えに来られた方の動き

- (1) 徒歩の場合  
各門から入り、児童玄関前（受付）へ行く。「児童受け取りカード」を提示し、続柄を伝えて子どもを受け取る。場合によっては、受付が体育館になる場合もあります。
- (2) 自転車の場合 体育センター北口付近の外壁沿いに駐輪して、受付へ行く。
- (3) 自動車の場合  
原則として、敷地内乗り入れは遠慮してください。  
必要に応じて、運動場や西駐車場使用可。一方通行で入り、車を止めて、受付で「児童受け取りカード」を提示し、続柄を伝えて子どもを受け取る。一方通行で門から出る。



【指示がなくても身を守る行動】



【運動場でも、とっさに、身を守る行動】

日頃の訓練の成果が出た！



【防災頭巾を素早く取って…】



【自分たちで判断して行動】



【頭を守って臨機応変に避難】

突然、緊急地震放送があつて…  
休み時間、先生がいなくて、焦ったけど…

防災ヘルメットや頭巾がなくても大丈夫！  
大切なのは、身を守ること！

抜き打ち避難訓練についての振り返りカードより(教職員の声)

- 抜き打ち訓練により、それぞれの場で最善の行動を自分で考えさせる良い機会ができた。
- 玄関で防災頭巾をすぐとれるように床にばらまいたけれど、通路に置かないようにしなければならなかった。実際にやってみてイメージが湧いた。
- 予期しない事が起きたときの児童の実態がわかった。音に反応して慌てる子、時にはパニックになる子もいる。いろいろな児童がいるので、今後、実態に合わせた事前指導や細かな配慮が必要である。

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	高松市立大野小学校
派遣内容	避難訓練についての指導及び校内環境についての指導
日時	令和2年10月18日（日） 8：30 ～ 12：30
場所	高松市立大野小学校
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 421名 教職員 約 25名 クラス数 17クラス（うち特別支援学級 3クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 43名 自主防災組織 32名 消防署 5名 その他（香川大学） 6名
内容・日程等	各学年の防災授業参観 新型コロナウイルス感染症対策をしながらの避難及び引き取り訓練
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年担任と地域担当が事前打ち合わせを綿密に行っていたため、スムーズな活動ができた。</li> <li>・保護者もいっしょに体験や学習してもらうことで、防災意識を高めていくことができた。</li> <li>・防災という観点だけでなく、発達段階に合わせて、交通や地域安全などについて、地域の方だけでなく、警察や消防にも協力してもらい、様々なことを学べたことがよかった。</li> <li>・水害について、プールを活用して、洪水体験ができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のために、6年生で計画していた炊き出し配給体験などができなかった。来年度に向けて、計画を練り直す必要がある。</li> <li>・今後も継続できるように、地域との協力体制を維持したい。</li> </ul>



【土嚢づくり体験学習】



【洪水体験学習】



【感染症対策をしながらの引き取り訓練】

## 防災授業参観及び避難・引き取り訓練実施計画（案）

### 1. 目的

- ・ 学習参観として防災授業を行うことで、児童にとっての防災学習のねらいを達成するとともに、家庭への啓発の場とする。
- ・ 地震による初期の避難行動と、感染症対策をとりながらの第一次避難所から保護者への引き取り訓練のしかたを身につける。
- ・ 引き渡す際に必要となる情報を収集し、確実に保護者へ引き渡す方法を身につける。

### 2. 実施日程 令和2年10月18日（日）

学習参観 8:30 ～ 11:45

【場所】 【教室】 【体育館】 【運動場】 【プール】 【外まわり】

8:30	1校時	3白 2赤	6赤	6白		
9:10		2白				
9:20	2校時	2赤	6白	6赤	3白	
10:00		2白		5年		
10:15	3校時	1赤	4年	5年		1白
10:55		2青 3赤				
11:05		4校時	1白	4年		3赤
11:45		2青				

12:00 ～ 避難訓練開始（運動場へ児童移動）

12:15 ～ 引き取り訓練・引き取り訓練不参加児童下校（危険箇所・子どもSOSを確認しながら下校）

### 3. 実施要領

#### 学習参観 内容

- 1年 「安全な登下校～お家の人と学校のまわりを歩いてみよう～」
- 2年 「通学路の危険について考えよう」「防災グッズを作ろう」
- 3年 「水から身を守る～体験活動を通して考えよう～」
- 4年 「非常持ち出し袋について学ぼう」
- 5年 「防災体験活動をしよう」
- 6年 「親子で応急手当を学ぼう」「防災体験活動をしよう」

#### 避難訓練・引き取り訓練

(1) 訓練時の想定 震度5強の地震発生。教室にて初期の避難行動をとる。第一次避難場所へ避難行動後、保護者へ児童を引き渡す。

#### (2) 訓練の事前指導内容（児童）

- 訓練の事前指導内容
  - ・初期の避難行動の指導
  - ・引き取り訓練の内容や方法の確認。

#### (3) 共通理解・行動（職員）

☆災害発生時、児童の安全を最優先で避難させる。

【保護者への連絡】基本メールにて引き取りの案内を出す。

【引き取り場所】・学年ごとの場所を周知・掲示（学年表示を準備）しておく。

【引き取り順】・長子の児童から引き取りに来てもらう。

【引き渡しカード・引き渡し名簿・引き渡し掲示物】

- ・引き取りに来た保護者を記録しておく。
  - 引き渡し名簿にて、確認事項（引き取り者の関係・家族以外なら名前・遅れるようなら時刻）記入。
- ・児童は座らせて待たせる。（保護者→担任→児童）担任から保護者へ引き渡す。
- ・必ず確認と記録をする。

【雨天時】・児童は上靴で集合する。

- ・学年ごとに出入り口を分ける。（引き取り時）
- ・保護者に渡した後、児童は靴を履き替え、傘を持ち帰る。

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	坂出市立東部小学校
派遣内容	地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和2年9月29日（火）13:40～14:25
場所	体育館
対象者	児童 53名 教職員 5名
参加人数	クラス数 2クラス
外部より当日参加した防災関係者	参加者合計14名 香川大学 3名 香川県防災士会 2名 市危機管理室 1名 自主防災組織 8名
内容・日程等	13:40～14:00 調べ学習の発表 14:00～14:25 各機関よりご指導
取組における成果	<p>これまで取り組んできた防災学習について、児童がグループごとに発表した。発表内容は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 東部地区の安全な避難場所・危険箇所</li> <li>② コロナ時代に必要な避難グッズ・防災グッズ</li> <li>③ 身近なものを利用した防災グッズの作り方</li> <li>④ 災害時に安全を確認する方法</li> <li>⑤ リーフレットの作成</li> </ol> <p>このことについて、次のようなアドバイスを受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市のハザードマップは広域にわたるので、東部地区に絞って、どのような情報を載せればよいか、これまで作ったマップを参考にして、実際に歩いて調べ、考えてみる必要がある。</li> <li>・ 災害時には、「〇〇が絶対に安全である」ということはない。あらゆる視点から多くの準備をすることが大切である。</li> <li>・ 安全な場所とされている場所は、災害の種類によっても違うので、それぞれの災害について考えなければならない。</li> <li>・ 防災マップには、土地の高低や避難経路を掲載し、スマホの地図アプリも合わせて活用すると実用的である。</li> <li>・ 非常時の持ち出し袋には、災害時にどんなことが起こるか想像して、必要なものを準備するのがよい。</li> <li>・ 防災グッズで手軽に役に立つのは、ゴミ袋（防水、防寒、荷物入れ等）である。</li> </ul> <p>その後、児童からの質問に対して、アドバイザーの方々から、分かりやすく、話していただき、今後の学習の方向性を示していただいた。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童へのアドバイスをもとに、学習内容を再検討する。</li> <li>・ 本事業を活用し、再度、危機管理マニュアルの見直しや修正を行い、実用性のあるマニュアル作りや訓練につなげていく。</li> </ul>



【グループごとに学習したことを発表】



【さらに知りたいことをアドバイザーに質問】



【発表内容についてアドバイザーよりお話】



【アドバイスをメモする児童】



## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	坂出市立東部小学校
派遣内容	作成した防災マップについて、校区内を実際に歩き、調査して、防災マップなどに掲載する情報の精選と活動に対する助言
日時	令和2年11月17日（火）13：40～15：20
場所	坂出市立東部小学校校区、体育館
対象者 参加人数	児童 53名 教職員 4名 クラス数 2クラス
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 18名 香川大学 1名 香川県防災士会 1名 市共働課 2名 坂出警察署 2名 自主防災組織 12名
内容・日程等	13：40～14：50 校区内通学路における安全点検 14：50～15：00 点検したことについて発表 15：00～15：20 各機関よりご指導
取組における成果	<p>前回アドバイスいただいた内容をもとに、これまで作成してきた防災マップやリーフレットに掲載している情報について、もう一度見直す必要があったことから、今回は、アドバイザーの方々と実際に校区を歩き、防災や防犯に役立つ施設・設備、気を付けなければならない危険箇所を調査した。</p> <p>帰校後、気付いたことなどを児童が発表し、その後、アドバイザーの方から以下の内容でご指導をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に歩いたことのない人にもわかりやすくまとめる。</li> <li>・ 今日は、天気が晴れて穏やかだったが、雨天時や地震が起き、揺れた場合など、状況の違いについても考える。</li> <li>・ 地域にある様々な施設や設備について、設置場所だけでなく、実際の使用方法等について、市役所等を訪問し、体験する。</li> <li>・ 家庭で、市から配布されている防災マップを見て、自分の家や学校、避難経路を確認しておく。</li> </ul> <p>これらのご指導をいただいたことで、実際に自分の目で見て確かめたことや収集した情報の中から、必要な事柄に絞って学習を進めていくことが分かった。</p> <p>また、多くの関係機関からお越しいただいたことにより、様々な視点からアドバイスいただいたことも、大変貴重な機会となった。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童へのアドバイスをもとに、学習内容を再検討する。</li> <li>・ 実際に活用したり、行動に移したりすることができる内容に絞りながら、学んだことを周囲に伝えていく。</li> </ul>



【グループごとに校区内を調査①】



【グループごとに校区内を調査②】



【調査したことについて発表】



【アドバイスを聞きメモする児童】

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川大学教育学部附属高松小学校
派遣内容	児童による消火器体験への指導・助言
日時	令和2年10月13日（火）12:50～14:50
場所	香川大学教育学部附属高松小学校 運動場
対象者	幼児児童生徒 約 34名 教職員 約 1名
参加人数	クラス数 1 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した防災関係者	
内容・日程等	12:50～14:20 4・5校時 消火器体験学習 14:20～14:50 6校時 体験を通しての質疑応答
取組における成果	<p><b>【事前活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プールにて、児童考案の水害を想定した体験を実施した。テレビ等で見聞きしたこととつなげて、逃げ遅れている人々の心の中を探り、「まだ大丈夫だろう」という思いが、逃げ場を失う第一歩になることを実感した。</li> <li>・水消火器を事前に児童自身で消防署へ連絡し、借りに行った。児童が自分で学ぼうとする意欲が高まり、防災への意識向上が図れた。</li> </ul> <p><b>【中心活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水消火器を使用した消火活動の仕方を指導していただいた。単に放水するだけでなく、炎のどのあたりをねらうのか、何mぐらい離れたところから放水するのかといった、実際の状況を想定して、消火活動の体験をする必要性への助言をいただいた。</li> <li>・1年生では消火器が重く、持ち運ぶことが難しいこともあり、小学校低学年から使用できる消火器の必要性を児童が訴える場面が見られた。</li> </ul> <p><b>【事後活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参観日に保護者へ向けた、消火器の使用方を説明する活動を取り入れ、家族ぐるみで防災への意欲付けができた。</li> <li>・消防署へ水消火器を児童たちで返却し、消防士の方々へお礼を伝えた。日頃から防災への意識や市民を守る仕事をされている方々への感謝の気持ちを高めている。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災に関して、実際の炎を消す活動の実施。</li> <li>・実際の消火器での消火活動の実施。</li> <li>・児童や教職員で消火可能な炎の高さ・広さなどを体験的に確認すること。</li> </ul>



【使い方の説明】



【水の勢い調べ】



【ねらいうち体験】



【炎に見立てたコーン】

【事業当日の参考資料】 10月13日

1. 目的 自分で消火ができるように消火器の使用方法について、体験を通して学ぶ。  
参観日に保護者に消火器の使い方を教えるために、自らも使い方を詳しく知る。
2. 方法 消防署から借りた水消火器を使用する。  
水が届く距離や範囲について、水消火器を使用して、繰り返し試す。

3. 学習の流れ

- ① **事前** 子ども自ら、消防署へ水消火器を借りに行く。(依頼を含めて)



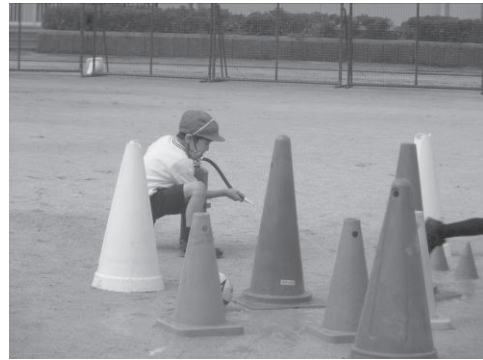
- ① **当日** 学校防災アドバイザーの方から水消火器の使用方法を学ぶ。体験の仕方を考え、実践する。



はじめは、水がどのように出るかを確かめる活動が中心であった。グループ全員（6人）が一度、使ってみると、次第に飛距離や水の出る範囲を確かめる活動に広がった。

従来の体験では、一人1回の体験であるが、一人一人が繰り返し使える機会を確保することで、自ら実際の消火活動を想定した体験へと創造的に広がっていった。

② 事後 参観日に保護者への体験の場を作り、水消火器の使い方を説明する。



使い方を保護者に説明する中で、消火器の特徴や活動の意義をクイズ形式で出題するグループも見られた。学校防災アドバイザーの方から教えていただいたことを広げることができた。たった1回の体験では、味わえない実際の消火活動につながるよい体験になった。

③ 事後 ふり返りを実施した。

きょう水しょうかきをつかた  
しきはしりながらやたらおなか  
たいてお

1年男児

こわたしがうまくいったよほねらしているところにかくりが当たったことでも  
とおくにあっておまじらかきについているパイプの上に乗けたらとまると  
ころにあるたのこいほんとおまじらかきにしておきたいです

2年女児

うまくいったことは遠くまでおまじらかきです。(水を)い出してそうなたかという、高く  
とはしたからです。近くとはおまじらかきで"ふく"とはおまじらかき。

3年女児

水消火器はけ、こうとぶなと思、た。使い方が分か  
てよか、た。風の方向は大切だと思、た。  
まじらかきに消してみたいと思、た。うまく風はけ

4年女児

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川大学教育学部附属高松小学校
派遣内容	防災グッズ・体験活動の考案
日時	令和2年11月13日（金）9：00～11：00
場所	香川大学教育学部附属高松小学校
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 34名 教職員 約 1名 クラス数 1クラス（特別支援学級 1クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	
内容・日程等	9：00～10：20 4・5校時 話し合い・検討 10：30～11：00 6校時 グループからの提案
取組における成果	<p><b>【事前活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に必要なものや、防災のための活動を児童一人一人が考えてくる。家庭や学校で補う必要のあるグッズや体験を考案する準備をする。</li> </ul> <p><b>【中心活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校に置いておく必要のあるグッズ」や「避難訓練でしておく方がよいこと」をグループで話し合い、その案にアドバイザーの方からご意見をいただき、修正しながら、実現可能な視点からグッズや体験を考案した。</li> <li>・最後に、各グループからの提案を聞いていただき、それぞれのグループでの講評をいただいた。具体的にしていくことを助言いただいた。</li> </ul> <p><b>【事後活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構が所有している災害地震訓練システムでの体験を行った。（保護者とともに）</li> <li>・学校で実施する避難訓練に合わせて、階段や廊下に障害物を置き、安全に避難する訓練をした。教師の言葉がけの在り方や児童が障害物へ意識を向けやすいことが分かり、教員間での訓練の必要性を見出せた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間や始業前といった児童が自分で判断して避難する訓練の在り方。</li> <li>・避難した際に児童が行方不明だと仮定した対応の仕方。</li> </ul>



【話し合いの様子】



【助言を受ける様子】



【防災バックの見学】



【プレゼンの様子】



【屋上の様子を確認】



【消火栓の確認】



【訓練システムでの体験】



【障害物のある避難訓練】

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

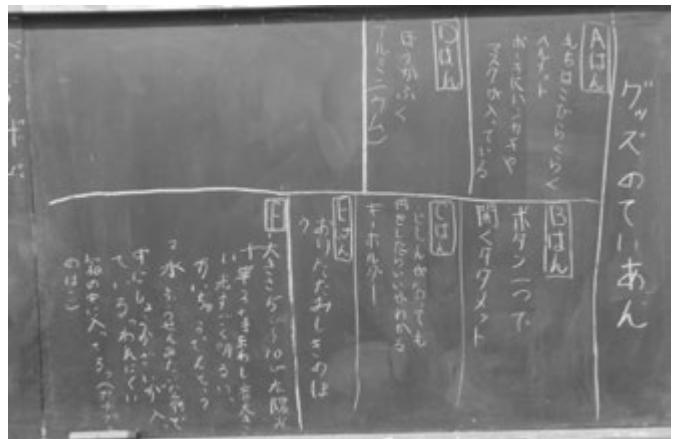
学校（園）等の名称	香川大学教育学部附属高松小学校
派遣内容	防災グッズ・体験活動の考案
日時	令和2年11月24日（火） 12:50～13:35
場所	香川大学教育学部附属高松小学校
対象者	幼児児童生徒 約 34名 教職員 約 1名
参加人数	クラス数 1 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した防災関係者	
内容・日程等	12:50～13:35 話し合い・検討・グループからの提案
取組における成果	<p><b>【事前活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震訓練システムでの体験、障害物を置いての避難訓練を通して、危機意識をもって体験することの大切さを実感した。体験も必要なグッズも具体的な視点をもって考えることの共通理解を図った。</li> </ul> <p><b>【中心活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害の種類を明確にして、児童の独創的なグッズや活動を提案し、アドバイザーの方からご意見をいただいた。地震で建物が崩れたときに必要なグッズに笛や懐中電灯があるため、双方を合体させた手軽な機器の提案が有効だというお言葉をいただいた。また、水に濡れることもあるため、防水加工も必要だという助言もいただいた。</li> </ul> <p><b>【事後活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震後の避難の仕方を児童一人一人が考え、必要な体験を計画して実施するようにし、防災副読本へ体験を推薦をしようとするようにしている。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震後の地面や建物の様子を体験する機会を設けること。</li> <li>児童が自ら防災体験を計画するゆとりのある時間の確保。</li> <li>バスや電車等の利用中を含めた登下校中に地震が起きた時の避難の仕方の訓練の在り方。</li> </ul>



【保温シートの準備】



【助言を受ける様子】



【事後に整理された意見】



【学校に置いておくグッズ案】

【事業当日の参考資料】 11月13日

1. 目的 防災の大切さを広げるために、災害の備えとなる防災グッズや活動を考案する。
2. 方法 これまでの体験をふり返り、「あったらいいな」「していたらよかったな」という視点で、話し合いを行う。
3. 学習の流れ
  - ① **事前** 自分たちで考えた防災につながる活動をする。

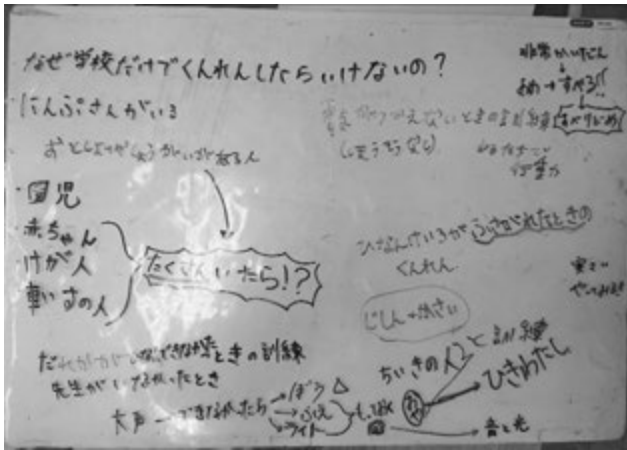


- ① **当日** これまでの学習をふり返る。
- ② 防災グッズや活動を考える。（避難訓練の改善を試みるグループの例）

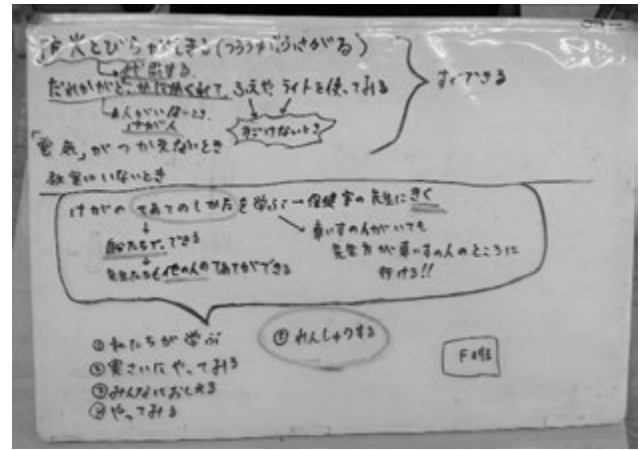


一般的な避難訓練から、より実践的な避難訓練の在り方について、助言をいただき、子ども自らが全校生のためになる避難訓練の計画を意欲的に立てるようになった。





【話し合いから生まれた考え】



【解決策】

③ 事後 話し合いから、避難訓練の改善を行う計画を立て、実施した。

④ 事後 香川大学の訓練システムで体験した。（休日のため希望者のみ：約20人+保護者）



⑤ 事後 校内での避難訓練を改善した。（体験での要素を取り入れる）



【登校後から自主的に準備】



【階段下に障害物】



【訓練の実施】



【訓練の後片づけ】

⑤ **事後** 子ども発の避難訓練の改善により、教職員の意識が変わった。（職員の反省より抜粋）

本来の流れは、「理科室での火災確認→電話連絡（場合によっては理科室からすぐに避難し、隣の教室等から電話連絡）→すぐに避難開始（隣教室、上の階教室の教員に声をかけ、避難）」であるが、今回の訓練は、「理科室での火災確認→内線で管理職へ連絡→（5～10分後）火災発生放送→放送後に全校生の避難開始」であった。火災発生状況を考えた上で、火災現場近くの教員同士でどのように声かけを行い、連携するか等の動きを把握しておく必要であった。

当日、イレギュラーの障害物があったことは、とても新鮮でよい経験になりました。私の学級の前にいた2年生の列が、障害物があったことで児童玄関から南館（火災現場）へ向かっていました。その際に、安全な避難経路を指示できなかった点が反省です。災害時には、その場の正しい判断が必要となるので、今回のような取り組みは、災害本番を想定した訓練になったと思います。

本当の地震を想定し、階段下などに障害物を置くことで、より一層現実の状況に近い状態で避難することができた。

予告なしで、なかよしタイムの真っ最中に訓練を実施したら、子どもたちはどのような反応を示すだろうか？冷静に放送を聞くことができるだろうか？附属高松小の子どもたちは登校範囲も広く、もし災害が起こったことを想定するならば、公立校の子どもと比べても自分で判断・行動しなくてはいけない可能性が高い。次の避難訓練は、例年通りだとすると不審者対応。予告なしの訓練も可能ではないだろうか？→検討



**【障害物を意識して避難指示を出す教員】**

どのような障害物がどこにあるかを教職員にも伝達せずに実施したため、教師の判断力も試される避難訓練となった。後日（3回目の実施日）、学校防災アドバイザーの方から、倒壊物を増やしたり、非常扉が閉まっていたりするなど、さらに実践的な障害物を設定することの意義についてもご指導いただいた。また、子どもが一人行方不明になるなど、教師が困惑する状況を子どもが設定することで、より実践的な避難訓練になることを教職員間でも共通理解を図ることにつながった。今後の避難訓練に大いに生かせる機会となった。

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	大手前高松中学・高等学校
派遣内容	実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和2年9月16日（水） 14：15～15：00
場所	各教室及び中庭、応接室
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 710名 教職員 約50名 クラス数 30 クラス（特別支援学級 0 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 4 名
内容・日程等	14：20～ 避難訓練 14：40～15：00 オンライン講評・講話 15：10～15：40 協議
取組における成果	<p>「事前活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルスの影響で生徒を避難訓練をさせることで「密」が発生しないかなどを基準に計画を立てた。</li> <li>・保健体育課とも相談し、コロナ対策も踏まえて対人の講評講話ではなく、オンラインでのスタイルにできるように調整した。</li> <li>・職員会議で要項を説明した。</li> <li>・今年度は全校朝礼や始業式・終業式を実施しておらず、体育の授業で事前指導を実施した。</li> </ul> <p>「中心活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度新しく状況確認教員を配置したが、連携が取れず、機能しなかった。（周知徹底）</li> <li>・状況確認教員が校舎ベランダから状況報告を行うことになっているが、アドバイザーからは余震もあることを想定するように助言をいただいた。</li> <li>・中庭に避難させたが、両サイドに校舎があり、地震のときにはガラスの破片も飛散している可能性もあり、整列のときに配慮する提案をいただいた。</li> <li>・松葉杖の生徒がおり、配慮の必要性を感じた。</li> <li>・オンライン講話ではパワーポイントも使われており、視覚的にも分かりやすかった。</li> </ul> <p>「事後活動」</p> <p>管理職、係、アドバイザーでミーティングを実施し、良かったところ、改善点、疑問点を意見交換し、共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からアドバイスをいただくことで、客観的に振り返りができる。</li> </ul>
今後の課題	職員への周知徹底すること。想定外のことにも対応できるスキルを上げること。訓練が形骸化されないように毎年工夫する。



【シェイクアウトの様子】



【中庭での集合の様子】



【教室でオンライン講話を聞く生徒の様子】



【オンライン講話の現場】



【訓練後のミーティングの様子】

(「ホームページ」での掲載例)





本校ホームページ

### 防災避難訓練

地震を想定した防災避難訓練が実施されました。避難訓練後、防災アドバイザーの方にオンラインで講話をしていただきました。



## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学 校 ( 園 ) 等 の 名 称	三豊市立仁尾中学校
派 遣 内 容	避難訓練 講話
日 時	令和2年11月4日(水) 13:20 ~ 14:10
場 所	仁尾中学校
対 象 者	幼児児童生徒 140名 教 職 員 約 20名
参 加 人 数	クラス数 6クラス (特別支援学級 1クラス)
外部より当日参加した 防 災 関 係 者	参加者合計 2名
内 容 ・ 日 程 等	11月4日(水) 13:20~ 避難訓練(地震・火災)を実施するので、その様子を見た後、講評をしていただく
取 組 に お け る 成 果	<p>当日は、本校で実施した避難訓練についての講評ということで、生徒に対して専門的な立場から話をさせていただきました。</p> <p>○ 避難訓練の様子</p> <p>13:20~ 各教室にて、担任から直前の指導を行う。</p> <p>13:25~ 放送にてシェイクアウトの音声を流し、それにしたがって安全確保行動をとる。</p> <p>13:28~ ヘルメットをかぶり運動場に避難する。</p> <p>13:31 避難終了(3分13秒)</p> <p>防災アドバイザーより講評</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難の様子は、静かで落ち着いていてよかった。</li> <li>・できれば、校内で使用しているスリッパから、運動靴へ履き替えた方がよい。など</li> </ul> <p>13:45頃 教室へ戻り、事後指導を行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○ 避難訓練後</p> <p>フローチャートについて、仁尾支所との連携等、これから取り組むべき課題についてアドバイスをいただいた。</p>
今 後 の 課 題	<p>○作成したフローチャートをもとに、近隣の公共施設と連携を図っていく。</p> <p>○小学校や防災士の方、自治防災組織の方と協力し、避難経路について具体的に示したものを作成し、フローチャートと一緒に残しておく。(教員の異動等があっても、引き継ぎができるようにしておくことが大切である)</p>

【事業当日の参考資料】

<当日の日程>

番	時間	内容	担当者	活動・留意事項
1	13:23	○訓練放送	教務 授業者・担任	「訓練・訓練！これからの放送は訓練です。」 ※ 2回繰り返す
2	13:25	シェイクアウト	教頭	〈シェイクアウト〉 シェイクアウトの音声にしたがって、安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」をとる。
3	13:28	火災避難訓練	教務	〈生徒への避難放送（2回放送）〉 「訓練・訓練！1階事務室から出火しました。ヘルメットをかぶり、直ちに、教室にいる先生の指示に従って、運動場に避難しなさい。」
4	13:30	生徒避難開始 避難誘導・援助  運動場で指揮	1年：2名 2年：2名 3年：2名  授業者 (学級担任) 各学年主任  生徒指導	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">                     1年団：南棟トイレ前から運動場へ                      2年団：南棟トイレ前から運動場へ                      3年団：南棟トイレ前から運動場へ                 </div> <初期誘導活動> 「オカシモ」の原則を厳守させる。 ○生徒は安全かつ迅速に適切な経路を通り避難する。 (教師が避難させる) ・順序よく避難 ・出席簿担任持参 ・上履きのまま ・姿勢をやや低く その他 無言、迅速、押さない、2列 計時：教頭「2回目放送後より測定」 *校長報告まで3分以内目標
5		救護  けが人搬送  各階の避難状況確認	2名  1年：1名 2年：1名 3年：1名	○救急品を運ぶ。 ○事務室等から重要品を運び出す。 ○保健室前の担架でけが人を運ぶ。 (生徒1名) ○各学年で逃げ遅れた者がいないか、 また、出入口が閉じられていないかを確認する。
6	13:33	○避難終了 ○整列 ○点呼	学級担任 学年主任 教頭	○指揮者に向かって、右から1年団、2年団、3年団の順で各学級男女2列ずつで整列させる。 ○学級委員が点呼し、全員そろっていれば座らせる。 *学級委員→担任→学年主任→教頭→校長
7	13:35	○講評・講話	防災アドバイザー	○防災アドバイザーのお話 *進行 教務
8	13:50	各自教室へ		○スリッパの裏を、よく拭いて、教室へ戻る。
9	14:00	事後指導 及び学年団	学級担任 学年主任	○各教室等で事後指導を行う。 ○備蓄品の配布

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立高瀬高等学校
派遣内容	安全行動や避難行動、運営所
日時	令和2年12月22日（火）12:00～13:00
場所	香川県立高瀬高等学校 第一体育館
対象者	幼児児童生徒 約400名 教職員 約40名
参加人数	クラス数 12クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した防災関係者	
内容・日程等	12:00～12:15 避難訓練 12:15～13:00 震災対策訓練
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休み中に地震が発生した際の安全行動について学べた。</li> <li>・避難所運営について生徒が経験できた。</li> </ul>
今後の課題	・本事業を活用し、再度マニュアルの見直しや検討を行い、修正等につなげていくこと。



【受付時の検温】



【体調不良者専用スペース】



## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立高松養護学校
派遣内容	講演会
日時	令和2年8月26日（水）15:30～16:50
場所	職員室
対象者数 参加人数	教職員 約100名
外部より当日参加した 防災関係者	
内容・日程等	15:30～15:40 講話 15:40～15:50 質疑応答
取組における成果	<p>【事前活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当日用の資料を事前に個人用パソコンの中に貼り付けてもらい、内容を確認できるようにした。</li> </ul> <p>【中心活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「香川県立高松養護学校におけるハザードとリスク対応について」という演題で講演をしていただいた。本校の立地上のハザードを丁寧に分析してくださり、どのようなところに気を付けたら良いのかアドバイスを受けたことで、今後の検討課題が明確になった。</li> </ul> <p>&lt;主なリスク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 河川やため池の堤防決壊による浸水の恐れ</li> <li>○ 地震時の強い揺れ</li> <li>○ 地震や風水害によるスクールバス運行路の危険性</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去に起きた地震や津波、河川の氾濫等の映像を見せていただき、災害の起きるメカニズムについて理解を深めることができた。</li> </ul> <p>【事後活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演会や防災に関するアンケートを行い、不安を感じる点についてあげてもらった。今後職員全体でアンケート結果を共有し、改善につなげていきたいと考えている。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全対応マニュアルの見直し…災害時における行動指針をより具体的に表記できるよう検討していく。</li> <li>・ 避難訓練の見直し…本校のリスクに応じた避難訓練ができるようにしていく。</li> <li>・ 話し合いの機会の充実…管理職や防災係を中心に意見交換する場を設けていく。</li> </ul>



【ハザードマップを使つての説明】



【個人用パソコンで資料を確認】

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立高松養護学校
派遣内容	防災避難訓練
日時	令和2年11月11日（水）9:55～11:30
場所	全校舎、第1避難場所等
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約100名 教職員 約120名 クラス数 44 クラス
外部より当日参加した 防災関係者	
内容・日程等	9:55～10:30 防災避難訓練 10:40～11:30 学校代表者との意見交換会
取組における成果	<p><b>【事前活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議で避難訓練の流れについて説明し、全体の動きや各自の役割を職員間で確認した。また、身を守る方法や不安を軽減する児童生徒への言葉かけについて共通理解を図った。</li> <li>各学部で、児童生徒への支援の仕方や避難経路について確認した。</li> <li>本部や初期消火の動きについて話し合いをもった。本部はホワイトボードを活用して情報の集約や共有を行うこととした。</li> </ul> <p><b>【中心活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>廊下に車いすや机が置かれているので、発災時に移動して避難路や防煙シャッターの妨げになるかもしれないとの指摘があった。</li> <li>避難訓練は地震が起こったところから始まっているが、緊急地震速報の放送を流して、身を守る行動がとれるか、児童生徒に言葉かけができるかというような内容を入れても良いのではとの助言があった。</li> <li>発火場所から遠い高等部も一斉に避難を開始していた。時間差をつけて避難をしても良いのでは。また、避難場所は学部で分かれるなどしても良いのではという提案があった。</li> <li>防災本部に記録係を置き時系列で記録をとっておくと、後から振り返ることができるとの助言があった。</li> <li>本部に情報を伝えていくために、必要なリストを挙げてフォーマットを作成しておく、施設等の状況が把握しやすいとの助言があった。</li> </ul> <p><b>【事後活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校防災アドバイザーの助言をまとめて全職員で情報を共有する。</li> <li>避難訓練のアンケート結果から、指摘のあったところを検討・改善し、次年度に向けてより現実的な訓練ができるようにする。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハザードや校舎の耐震性などを考慮し、本校の実情に合った避難方法を検討していく。</li> <li>本事業を活用し、マニュアルの見直しや検討を行い、修正等につなげていく。</li> </ul>



**【救護場所の設置等について学校防災アドバイザーから助言を受けている様子】**

### 3 教職員の研修会等への助言



## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	東かがわ市立丹生こども園
派遣内容	避難経路や避難場所の再確認
日時	令和2年7月10日（金） 9：30 ～ 11：00
場所	職員室及び園周辺
対象者数 参加人数	教職員 2名
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 6名 アドバイザー：香川大学 1名 香川県防災士会 2名 消防署 1名 市役所危機管理課 2名
内容・日程等	9：30～10：00 現在の避難経路や避難場所について報告 10：00～10：40 園周辺環境の実態把握 10：40～11：00 避難経路や避難場所の確認
取組における成果	<p>○津波・ため池ハザードマップから、園周辺の立地から起こりうる災害を知ることができた。園は津波の心配は無いが、ため池の決壊や液状化現象が予想される。高台の第2避難場所（園外）よりも、本園で留まる方が安全なことが分かった。</p> <p>○園内の見回りを一緒にしていただき、危険箇所気付けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ転倒や移動防止（対応：地震対応のインシュレーター）</li> <li>・家具や本棚の転倒防止（対応：壁に固定）</li> <li>・ガラスの飛散防止（対応：飛散防止フィルム）</li> </ul> <p>○本園は、広域避難場所である。混乱を防ぐため、市や地域の方と話し合い園児が使用する場所、地域の方に提供する場所を明確にしておくことを教えたいただいた。</p> <p>○市危機管理課の方も来園していただいた。園の現状を伝えたり今後もつながっていきっていくためのきっかけ作りとなった。</p>
今後の課題	<p>○園内危険箇所の改善を図る。</p> <p>○スムーズに園児を保護者に引き渡せるような方法を検討する。</p>



【研修の様子】



【施設巡回】

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	高松市立古高松南小学校
派遣内容	○巨大地震発生時の本校周辺のハザードとリスク対応 ○立地を考慮した二次避難場所について
日時	令和2年 8月 4日（火）10:00～11:30
場所	高松市立古高松南小学校 6年1組教室
対象者数 参加人数	教職員約 3名
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 5名 隣接する学校（園） 1名 保護者 1名 自主防災組織 2名 その他（高松市災害時指定職員）1名
内容・日程等	10:00～ 講話（資料、視聴覚機器を通して） 10:50～ 質疑・応答及び助言
取組における成果	○新川沿いの低地にある本校は、校区内に春日川もあり、大きな地震が発生した場合に津波だけでなく、液状化等の危険性も高いため、2次避難場所を含め、最善の避難方法について助言をいただきたく本事業を依頼した。→津波到達まで2～3時間、川の堤防決壊による浸水、さらに何よりも注意すべきは、ため池の決壊による浸水である。本校の周辺には、学校よりも高い場所はない。従って、校舎内の2階以上に避難するのが望ましい。校外に2次避難すると避難中にため池の決壊による浸水に巻き込まれる恐れがある。ただし、教室内の危険因子（落下物や移動するもの）を常に把握しておき、地震発生の際に身を守る場所などについて考えておかなければならない。 ○学校危機管理マニュアルへの指導・助言 ・地震発生時の思考決定プロセスの明確化 ・平常時の周辺環境で考えるのではなく、停電すること、ため池の決壊、液状化など非常時の状況をできるだけ想定して、具体的に決めておく ・児童の登下校時に地震が発生した場合を想定し、各通学路ごとに中間地点を決めておく、学校に行くのか自宅に引き返すのかあらかじめ決めておく。具体的な個別指導が必要。
今後の課題	・地震発生時の様々な状況を想定した危機管理マニュアルの見直しを行い、避難訓練の在り方も含め、教職員と共通理解をしておくこと。 ・登下校時や家にいるときなどに発生することも考えられるため、学校だけでなく、家庭や地域とも連携を強化していくこと。



【アドバイザーによる講話】



【関係者による協議】

## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三豊市立詫間中学校
派遣内容	避難ルートの検証
日時	令和2年8月6日（木）9：30～11：30
場所	三豊市立詫間中学校 会議室
対象者数 参加人数	教職員 3名
外部より当日参加した 防災関係者	
内容・日程等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺の自然条件から考えた避難ルートの検証</li> <li>・現行の避難訓練計画の見直し</li> </ul>
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害環境データについての理解 ハザードマップを見ながら、南海トラフ巨大地震（最大クラスの地震時）についてのデータ（震度7、浸水30cm到達の時間180分、高潮による浸水想定深さ2～3m、液状化危険度A）等について確認した。データ上の数字や視覚に訴える資料を通して、改めて避難ルートの見直しが必要であることを実感した。</li> <li>○ 避難ルートの検証 例年の訓練における避難ルート（校舎4階への避難）が適切であるかどうかを検証した。その結果、災害時に外部と孤立する可能性があるため、新たなルートが必要であることを確認した。本校の生徒は、隣接する保育所の園児（1～5歳）を伴って避難するので、避難先までの移動距離に限界が生じる。そこで、避難に適した距離、高さ、空間を兼ね備えた寺院と神社が避難先の候補となった。事前に防災アドバイザーの方々が校区内の様々な場所へ赴き、避難所候補の周辺環境を調べてくださったため、大変スムーズに話し合いを進めることができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者への啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校通信で災害環境についての情報を発信する。（9月1日防災の日）</li> <li>・ PTA総会や学年行事の説明会等で、保護者に避難先（第1・第2次避難所）を周知することで、避難所での保護者への引き渡しが確実にできるようにする。</li> </ul> </li> <li>○ 新たな避難訓練計画の作成</li> <li>○ 地域防災・市危機管理課との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難所（寺院・神社）へ地域住民が避難することを考えると中学生・園児の避難スペースの確保が危ぶまれる。</li> <li>・ 避難所における備蓄（水や毛布等）の保管について検討する。</li> </ul> </li> </ul>



【協議の様子（8月6日）】



【協議の様子（8月18日）】



## 令和2年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三豊市立詫間中学校
派遣内容	避難計画の見直し
日時	令和2年8月18日（火）9：30～11：30
場所	三豊市立詫間中学校 会議室
対象者数 参加人数	教職員 3名
外部より当日参加した 防災関係者	隣接する学校（園） 1名 その他（市教育委員会担当 1名）
内容・日程等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度避難訓練計画等への助言</li> <li>・隣接する保育所や三豊市担当者からの質疑・応答</li> </ul>
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和3年度避難訓練計画の検討 隣接する保育所長と市教委主事を交えて話し合ったことで、有事に備えてそれぞれの立場で何をすべきかについて考え、共通理解を図ることができた。また、新たな避難訓練計画の以下の点について検討するなかで、今後の課題を明らかにすることができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園児を迎えに行く生徒の動きと担当園児を素早く確実に確認するための工夫</li> <li>・ 避難前の道路状況確認や避難時の生徒誘導の方法</li> <li>・ 避難場所での保護者への引き渡し （メール配信、保護者車両の駐車、誘導等）</li> <li>・ 教職員の役割分担と必要な装備</li> <li>・ 避難所で備蓄しておく物と避難時に持って行く物の確認</li> <li>・ 避難所（寶林寺・天満宮）との連携</li> <li>・ 校区内小学校との共通理解と連携</li> </ul> </li> <li>○ 保護者への啓発 9月1日（防災の日）に、生徒は市教委より配布された防災ヘルメットを着用し、避難に備えて机の横に常備した。その様子を伝える学校通信「浦島伝説 11号(R2.9.7発行)」に、併せて、学校を取り巻く災害環境データや専門家を招いて来年度の新たな避難計画を作成していること等について紹介した。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難所・市危機管理課との連携 避難所（寺院・神社）から水・毛布等を備蓄する場所の確保について了解をもらった。今後、具体的に備蓄物資の調達等について市と話し合い、進めていく。避難所を利用する地域住民の数を把握するためにも、市の協力を得る必要がある。</li> <li>○ 避難訓練における自治会や保護者の参加 防災アドバイザーの方々より「詫間中が行動を起こすことで、周囲の一般の人達も変わっていくことが期待できる」との助言をいただいた。来年度の避難訓練に自治会や保護者の方を招き、生徒が避難する様子を見てもらうことで地域防災に少しでも貢献できればと願う。それは、本校の教育目標「ふるさとを愛し、誇りと志をもって未来を切り拓く生徒の育成」にもつながる大切な一歩であると考えている。</li> </ul>





